第３期
おおの創生総合戦略

令和７年７月

岐阜県大野町

目　　次

（１）　総合戦略の概要 １

① 総合戦略の計画期間 １

② 国・岐阜県の総合戦略との関係性 １

③ 大野町総合計画ほか個別計画との関係性 １

④ 総合戦略の評価・検証の仕組み １

⑤ 第２期総合戦略の取り組み状況 ２

（２）　基本方針 ３

① 本町の地域ビジョン ３

② 事業実施における５原則 ３

③ 総合戦略の基本的な考え方 ４

（３）　基本目標と基本的方向 ５

① 基本目標の考え方 ５

② ５つの基本目標とＳＤＧｓとの関係性 ７

（４）　戦略の推進にあたっての考え方 １１

① 計画のフォローアップ・進行管理 １１

② 多様な主体と連携・協働 １１

③ 財源の確保 １１

（５）基本目標の実現に向けた施策展開 １２

基本目標１　結婚・出産・子育ての希望をかなえる（出生数を増やす）..... １２

基本目標２　いつまでも健康の希望をかなえる（健康寿命をのばす）..... １７

基本目標３　住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえる（移住定住の促進）..２０

基本目標４　働きたいという希望をかなえる（地域産業の活性化）..... ３６

基本目標５　訪れてみたい・もてなしたいという希望をかなえる（交流人口の拡大）..４３

巻末資料 ４８

（１）総合戦略の概要

①　総合戦略の計画期間

第３期おおの創生総合戦略（以下「本戦略」という。）の計画期間は、令和 7 年（2025 年）8 月から令和 12 年（2030 年）3 月までの 4 年 8 か月間とします。

②　国・岐阜県の総合戦略との関係性

本戦略は、令和元年（2019 年）12 月 20 日に改訂された国の「長期ビジョン」及び令和 5 年（2023 年）12 月 26 日に改訂された「デジタル田園都市国家構想総合戦略」、令和 7 年 6 月 13 日に閣議決定された「地方創生 2.0 基本構想」を勘案するとともに、岐阜県における「岐阜県人口ビジョン」及び「『清流の国ぎふ』創生総合戦略」の方向性も踏まえつつ策定するものであり、本町の人口減少の克服と地域の自立的かつ持続的な活性化に向けて、第２期おおの創生総合戦略（以下「第２期総合戦略」という。）の計画期間における取り組みの評価と、本戦略の計画期間における具体的な取り組みの方向性を示すものです。

③　大野町総合計画ほか個別計画との関係性

大野町第七次総合計画（以下「総合計画」という。）は、町が策定する最上位の計画に位置づけられており、総合的かつ計画的にまちづくりを進めるための指針となるものです。町の地域活性化の方向を示した大野町グランドデザイン改訂版を踏まえ、町の将来のあるべき姿とそれを実現するための各分野における施策の方向性を示しています。総合計画の構成は、平成 27 年度（2015 年度）から令和 16 年度（2034 年度）までの 20 年間を、本町が目指すまちづくりの基本的な考え方や将来像などを示す「基本構想」、令和 16 年度（2034 年度）までの 10 年間を、将来像の実現に向けて各分野で取り組む主要施策や主要事業、重点的に取り組むリーディングプロジェクトを位置づけた「基本計画」としたうえで、「実施計画」を３年間という期間で策定しており、毎年度見直しを実施しています。

本戦略は、総合計画をはじめとして、その他の町で策定している各分野の個別計画との整合を図りながら策定し、計画的に実施していきます。

④　総合戦略の評価・検証の仕組み

本戦略に位置づけた施策・事業については、総合計画と一体的なＰＤＣＡサイクルを実施します。毎年度、住民や産官学金労言士等の外部委員からなる「おおの創生総合戦略検討委員会」を開催し、施策・事業の進捗状況のチェックや効果検証を行います。検証結果を次年度の施策や予算案に反映することにより、施策・事業が計画的に実行されるよう進行管理を行っていきます。

⑤　第２期総合戦略の取り組み状況

１）評価の方法

第２期総合戦略に示した5つの基本目標及び16の施策を対象として、達成状況の評価を行いました。施策においては、重要業績評価指標（ＫＰＩ）を次の評価基準に従い、6区分で評価しました。

施策の評価基準

区分	目安
Ｓ：目標を大幅に上回っている	数値目標を基準に＋30%以上
Ａ：目標を上回っている	数値目標を基準に＋10%以上～＋30%未満
Ｂ：目標を概ね達成している	数値目標を基準に－10%以上～＋10%未満
Ｃ：目標をやや下回っている	数値目標を基準に－10%未満～－30%以上
Ｄ：目標を下回っており、大幅な改善が必要	数値目標を基準に－30%未満
Ｅ：評価基準となる数値等がない	

２）評価結果の概要

基本目標については、5つのうち2つが達成している結果です。また、施策については、目標を達成しているＳ～Ｂ評価が59項目中31項目であり、全体の52.5%となっています。

これらの評価を受けて、総合計画や本戦略を勘案し、取り組み内容や目標指標（目標値）の見直しを行いました。

基本目標・施策の評価結果

基本目標		基本目標の評価	施策の評価						
			KPI	S	A	B	C	D	E
1	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	未達成	9 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 55.6%	3 33.3%	0 0.0%	1 11.1%
2	いつまでも健康の希望をかなえる	概ね達成	7 100.0%	0 0.0%	1 14.3%	4 57.1%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%
3	住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえる	未達成	25 100.0%	2 8.0%	1 4.0%	7 28.0%	8 32.0%	7 28.0%	0 0.0%
4	働きたいという希望をかなえる	概ね達成	11 100.0%	0 0.0%	2 18.2%	6 54.5%	1 9.1%	2 18.2%	0 0.0%
5	訪れてみたい・もてなしたいという希望をかなえる	やや下回る	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 42.9%	4 57.1%	0 0.0%	0 0.0%
合計			59 100.0%	2 3.4%	4 6.8%	25 42.3%	17 28.8%	10 17.0%	1 1.7%

※評価結果の詳細は巻末資料P.48参照

（２）基本方針

①　本町の地域ビジョン

快適で　笑顔あふれるやすらぎのまち　おおの

水と緑に囲まれた自然豊かで住みよいコンパクトな町の特性を活かした、一人ひとりの顔が見えるまちづくりを通して、誰もが快適に笑顔で安心して住み続けられる田園都市、そして大野町の持続可能なまちづくりを目差し、本戦略において本町が目指すべき理想像（地域ビジョン）を「快適で　笑顔あふれるやすらぎのまち　おおの」とします。

②　事業実施における５原則

第１期総合戦略において掲げた５原則について、本戦略においても引き続き、事業実施の原則とします。

１）自立性

本戦略では、町民や事業者、地元の関係機関等の活力を積極的に活用しながら、各施策が一過性の対症療法的なものにとどまることなく、本町や町民・事業者等の自立に繋がるよう、継続的に町の活力を再生・維持していくための事業を進めていきます。

国からの補助金・交付金等を積極的に活用しつつも、本町の課題や構造的な問題発生の原因に対する取り組みへの活用を基本として、補助金・交付金等がなくても持続的に施策・事業の展開が図られるよう留意します。

２）将来性

本戦略では、地域ビジョン「快適で　笑顔あふれるやすらぎのまち　おおの」の実現に向けて、地域産業や町民生活の活力を維持・創出することにより、町民・事業者等が町の将来に期待を持つことができるよう、本町が自主性・主体性を持って取り組むことができる施策・事業の展開が図られるよう留意します。

３）地域性

本戦略では、バラや柿をはじめとする全国有数の農産物、高速道路網の整備による広域的な交通利便性などに恵まれた本町の特徴や魅力を最大限に活かし、快適でやすらぎを感じることができる質の高い豊かな暮らしが実現でき、こどもも若者も高齢者も、町民誰もがまちに愛着と誇りを持って、いつまでも住み続けたいと思えるような施策・事業の展開が図られるよう留意します。

４）直接性

本戦略では、町民・事業者等との協働や関係人口の創出・拡大、産官学金労言士の連携を一層強化する体制や仕組みづくりに取り組むなど、様々な主体が関わり合いながら、それぞれの役割を発揮し、政策効果をより高める工夫を行うことにより、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるための施策・事業の展開が図られるよう留意します。

５）結果重視

本戦略では、施策・事業に関する重要業績評価指標（ＫＰＩ）を定め、ＰＤＣＡサイクルのもとで施策・事業の効果や進捗状況の検証を進めていきます。これにより、政策効果を常に客観的な指標により検証し、必要な改善等を継続的に行っていき、結果を重視した実効性の高い施策・事業の展開が図られるよう留意します。

③　総合戦略の基本的な考え方

１）基本的な考え方

本戦略では、人口ビジョンで示した「2060 年に人口 1.8 万人程度を維持する」ことを目指し、出生率の向上や社会移動の改善を図るために、計画期間中に重点的に取り組むべき施策・事業を位置づけています。

出生率の向上を図る取り組みについては、第１期総合戦略から引き続き、結婚・出産・子育てに対する不安を取り除き、出産を希望する人が安心してこどもを産み育てられるようなまちづくりを進め、合計特殊出生率を 2030 年までに 1.8、2040 年までに 2.07 程度まで上昇させます。

また、社会移動の改善については、本町では、平成 21 年より転出者数が転入者数を上回る社会減（転出超過）の傾向が続いており、特に転出傾向が多くみられる 20 代から 40 代の転出超過を解消し、「住んでいてよかった　住み続けたい」と感じるまちづくりを第一に、現在住んでいる人が誇りと愛着を持ち続けられるように取り組みます。

以前は、本町の持つ自然豊かな住環境と比較的安価な地価を強みに、岐阜市などの周辺市町からの人口流入がみられましたが、名鉄揖斐線の廃線により公共交通の利便性の低下が弱みとなり、近年は転出超過の状態が続いています。こうしたことから、本町の弱みとなっている公共交通などの利便性の向上や子育て支援の充実、健康づくりの推進を図るとともに、全国に誇れるバラや柿、文化・歴史ロマンを感じる多くの資源などを強みとすべく施策を展開しながら、郷土への愛着を育むことにより、定住の促進を図ることを目指します。また、こうした資源を最大限活用し、一年を通じた観光誘客による交流人口の拡大や観光を契機とした関係人口の創出を図ります。また、付加価値化によるブランド力の向上、地域内産業の活性化を創出するとともに、移住促進に繋がるプロモーションを展開していきます。

一方、個人の行動様式の多様化や、ＤＸの推進、ＳＤＧｓ、脱炭素社会の実現など新たな潮流への対応が求められており、取り組むべき課題が多岐にわたります。デジタル新技術の徹底活用、国・県・市町村との施策間連携、県や市町村域を越えた官民の地域間連携の強化等により、地域ビジョン「快適で　笑顔あふれるやすらぎのまち　おおの」の実現を目指し、持続可能で自立したまちづくりを進めていきます。

２）施策・事業の実施にあたっての留意点

上記の基本的な考え方を踏まえ、本戦略においては、以下の点に留意して施策・事業の実施にあたります。

- ●人口ビジョンの将来展望を実現するために「出生率の向上」と「社会移動の改善」が期待できる取り組み効果の高い具体的な事業を選別し、重点的に実施していきます。
- ●施策・事業の位置づけに際しては、施策対象を絞り込み、事業効果の見込みを明らかにするなど、戦略性を持った取り組みとして実施していきます。
- ●本戦略に位置づける施策・事業は、計画的な実施と進行管理を行うことを基本として、町の財政等の見込みとも整合を図りながら実効性の高い現実的な取り組みとして実施していきます。

（３）基本目標と基本的方向

①　基本目標の考え方

国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」には、以下の施策の方向性が掲げられています。

地方の社会課題解決	国によるデジタル実装の基礎条件整備
・地方に仕事をつくる ・人の流れをつくる ・結婚・出産・子育ての希望をかなえる ・魅力的な地域をつくる	・デジタル基盤の整備 ・デジタル人材の育成・確保 ・誰一人取り残されないための取組

また、国の「地方創生 2.0 基本構想」には、以下が政策の５本柱として提示されました。

・安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生
・稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生
・人や企業の地方分散
・新時代のインフラ整備ＡＩ・デジタルなどの新技術の徹底活用
・広域リージョン連携

第１期総合戦略策定において、「快適で　笑顔あふれるやすらぎのまち　おおの」の実現に向けて、「人口減少への挑戦（自然減への挑戦、社会減への挑戦、自然減・社会減を補う視点）」という観点から、『大野町で暮らし、活動する様々な人々の“希望”をかなえる』ことができるように、本町の地方創生にあたって具体的に取り組むべき方向性を示す 5 つの基本目標および基本目標を達成するための 16 施策を設定しました。

本戦略においても、国の総合戦略・基本構想等を勘案しながら、第１期総合戦略より引き継いだ 5 つの基本目標と 16 施策に基づいて、各種事業を推進します。

大野町が目指す人口減少への挑戦

自然減への挑戦	社会減への挑戦
自然減・社会減を補う視点	

基本目標１	結婚・出産・子育ての希望をかなえる（出生数を増やす）
基本目標２	いつまでも健康の希望をかなえる（健康寿命をのばす）
基本目標３	住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえる（移住定住の促進）
基本目標４	働きたいという希望をかなえる（地域産業の活性化）
基本目標５	訪れてみたい・もてなしたいという希望をかなえる（交流人口の拡大）

基本目標１	結婚・出産・子育ての希望をかなえる
施策１	子育て支援の充実
施策２	教育力の強化・教育レベルの向上
基本目標２	いつまでも健康の希望をかなえる
施策３	健康寿命の延伸と体力増進
基本目標３	住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえる
施策４	地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大
施策５	タウンプロモーションの展開
施策６	定住環境としての魅力向上
施策７	郷土愛の醸成・特色あるふるさとづくり
施策８	地域活動の活性化
施策９	公共交通の充実
施策 10	地域福祉の充実
施策 11	移住・ＵＪＩターンの促進
基本目標４	働きたいという希望をかなえる
施策 12	地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大　**【再掲】**
施策 13	新産業の創出・商工業の発展
施策 14	農業の活性化・担い手育成
基本目標５	訪れてみたい・もてなしたいという希望をかなえる
施策 15	タウンプロモーションの展開　**【再掲】**
施策 16	地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大　**【再掲】**

②　５つの基本目標とＳＤＧｓとの関係性

１）ＳＤＧｓ（エスディージーズ）とは

持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ：Sustainable Development Goals）とは、平成 27 年（2015 年）9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された平成 28 年（2016 年）から令和 12 年（2030 年）までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための 17 の目標・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。ＳＤＧｓは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

２）自治体に期待されるＳＤＧｓの取り組み

国は、ＳＤＧｓの 17 の目標や 169 のターゲットに示される多様な項目の追及が、日本の各地域における諸課題の解決に貢献し、地方創生を推進するものであるとしています。しかし、ＳＤＧｓの目標やターゲット及びそれらの進捗管理のための指標の中には、グローバルで国家として取り組むべきものなどが多く含まれていることから、これらの中から取捨選択し、各地域の実情にあわせて落とし込む作業が必要です。

そこで、町では、以下の 17 の目標と本戦略の基本目標との結びつきを整理することで、特に注力すべき政策課題の明確化や、経済・社会・環境の三側面の相互関連性の把握により、地域課題の解決を一層促進します。

【１７の目標】

	貧困をなくそう
	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる ➢　適切な社会保障制度及び対策を実施し、貧困で生活に苦しむ人々の支援や子育て支援を行う

	飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する ➢ 農業や畜産などの食料生産の支援を実施し、安全な食料確保を推進する
	すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する ➢ 全ての町民に対して、質の高い基礎的な保健サービスを受けられる環境を整備し、町民の健康維持に貢献する
	質の高い教育をみんなに 全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する ➢ 学校教育（特に初等・中等教育）や社会教育の両面で、全ての町民が適切かつ効果的な学習機会を得られるようにする
	ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女児の能力強化を行う ➢ 女性やこども等の社会的弱者の人権を守り、男女共同参画社会を実現する
	安全な水とトイレを世界に 全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する ➢ 全ての町民が普遍的かつ平等に安全で清潔な水を確保出来る環境を維持する
	エネルギーをみんなに、そしてクリーンに 全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する ➢ 町民や町内企業における再生可能エネルギーの導入を推進する
	働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する ➢ 様々な分野の持続可能な経済成長を支え、創業支援や企業誘致等を通して雇用を創出する
	産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る ➢ 地域のインフラ整備を行い、地元企業の支援、新たな産業の創出に貢献する
	人や国の不平等をなくそう 各国内及び各国間の不平等を是正する ➢ 差別や偏見の解消や社会保障制度等の実施により、不平等を是正する
	住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する ➢ 町民のニーズを反映させた利用しやすい公共交通ネットワークを整備するとともに、災害に対して強靱で持続可能なまちを実現する。

	つくる責任、つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する ➢ 省エネや3Rの徹底など、町民の環境への意識を高め、環境への負荷削減を目指す
	気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる ➢ 気候変動問題の解決に向けた取り組みと自然災害に備えた強靱なまちを目指す
	海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する ➢ 家庭や企業からの排水を適切に処理し、河川・海洋の汚染対策に貢献する
	陸の豊かさも守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する ➢ 町民や町内企業の環境保全に対する理解を深め、自然生態系の保護に貢献する
	平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する ➢ 児童虐待等の暴力を撲滅し、平和で公正な社会を実現する
	パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する ➢ 町民や企業、団体等とのパートナーシップを構築し、まちづくりを推進する

基本目標 **1**	**結婚・出産・子育ての希望をかなえる（出生数を増やす）**

本町の強みである豊かな自然環境を活かした木育などの取り組みとともに、弱みである公共交通の利便性の低さからくる通学の不便さと経済的負担を改善する取り組みを通じて、結婚・出産・子育ての希望をかなえられるようにしていきます。また、結婚・出産の支援をはじめ、「子育てはうす ぱすてる」を拠点とした子育て支援の充実、地域でのこどもを守り・育む環境づくりを進め、安心してこどもを生み育てられるまちづくりを行っていきます。

基本目標 2	いつまでも健康の希望をかなえる（健康寿命をのばす）

本町の強みである総合病院との連携を通じて、誰もが身近な地域で安心して医療を受けられ、いつまでも健康に暮らすことができるまちを目指します。また、高齢者はもちろん子育て世代も心身ともに健康で、活動的に暮らせるように体力の増進を図ります。高齢者が健康で活動的に暮らすことにより、子育てへの参加や経済的な支援など間接的に出生数の増加が期待されます。

基本目標 3	住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえる（移住定住の促進）

本町の強みである自然豊かな住環境や地域資源を活かした取り組みを促進するとともに、弱みである交通利便性を改善する取り組みを進め、町民が郷土愛を育み、住み続けたいという方やUターンで再び故郷へ移住するという方の増加を目指します。また、町外からも住んでみたいという方が増えるような魅力ある取り組みにより、移住定住の促進を図っていきます。

基本目標 4	働きたいという希望をかなえる（地域産業の活性化）

本町の弱みである働く場の減少を克服するため、令和元年12月に開通した東海環状自動車道大野神戸インターチェンジ（以下「大野神戸ＩＣ」という。）による交通利便性の向上を強みとして、テクノパーク大野をはじめとした企業誘致を積極的に進めます。更に、既存の産業である農業や商工業についても、新たな地域ブランドづくりなどにより、活性化を図っていきます。また、新たな観光・産業振興の拠点となる道の駅「パレットピアおおの」を積極的に活用し、既存の資源とつなげながら雇用を創出していきます。

基本目標 5	訪れてみたい・もてなしたいという希望をかなえる（交流人口の拡大）

平成 30 年に開駅した道の駅「パレットピアおおの」には現在も多くの観光客が訪れていますが、人口規模が同規模の周辺市町と比べて、入込客数は少ない状況にあります。大野神戸ＩＣ開通による交通利便性の向上と観光拠点としての道の駅「パレットピアおおの」の活用、地域資源・観光イベントをブラッシュアップすることなどにより、西美濃圏域の玄関口として本町に訪れてみたい・もてなしたいという人を増やすことで交流人口の拡大と、観光を契機とした関係人口の創出を目指していきます。

（４）戦略の推進にあたっての考え方

①　計画のフォローアップ・進行管理

本戦略の計画期間は、令和 7 年（2025 年）8 月から令和 12 年（2030 年）3 月までの 4 年 8 か月間とし、目標年度である令和 11 年度（2029 年度）実績までＰＤＣＡサイクルによる進行管理を行います。

また、毎年度の予算編成結果を随時反映させるとともに、総合計画との一体的な推進、国が提供する「地域経済分析システム（RESAS）」による詳細な経済分析、また、国勢調査等の各種統計調査の結果等を踏まえ、エビデンスに基づいた見直しを随時実施します。

②　多様な主体と連携・協働

本戦略に位置づけた施策・事業の推進にあたっては、町民や町内事業者をはじめ、総合戦略策定段階から参画する産官学金労言士等の広く多様な分野からの意見を取り入れながら、地域が一丸となった総合的な取り組みを重視し、本町に関わる様々な主体との連携・協働での推進を継続します。

③　財源の確保

本戦略に位置づけた施策・事業の推進にあたっては、総合計画に位置づける施策との整合を図りながら、最少の経費で最大の効果を発揮できるよう、創意工夫を行い推進することとし、「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第２世代交付金）」等の地方創生に関する交付金をはじめとした国や県の財政支援制度の積極的な活用や、企業版ふるさと納税等新たな財源の確保を視野に入れながら、適正な予算措置を図っていくものとします。

（５）基本目標の実現に向けた施策展開

基本目標１　結婚・出産・子育ての希望をかなえる（出生数を増やす）

本町人口の自然増減の推移をみると、死亡数が出生数を上回る自然減の状況や合計特殊出生率については、1.34 と県平均と比べ低く、低水準の傾向が続いています。こうした中、結婚・出産・子育ての希望をかなえ出生数を増やすためには、こどもを産み育てる年代である生産人口を維持することを土台として、共働き世帯が子育てしながら、いきいきと活躍できる社会の実現を目指す必要があります。

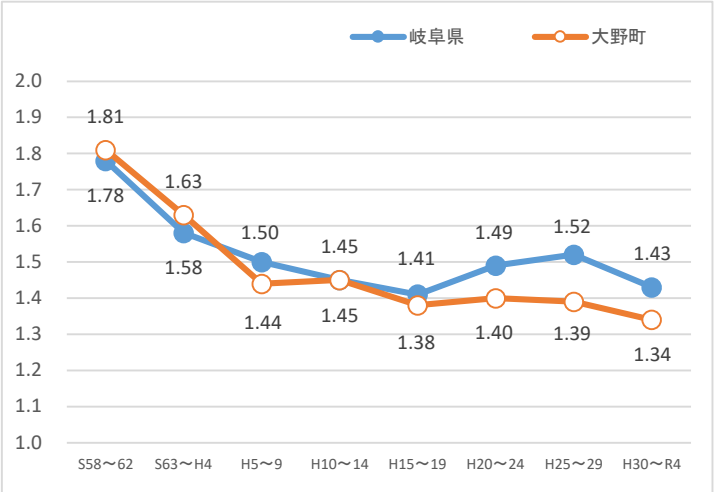
これらの課題に対し、充実した妊娠・出産支援により出産の希望をかなえ、現在取り組んでいる公立認定こども園の統廃合においては、通常保育以外の延長保育や一時保育、要支援児等通常保育以外の保育も含めた質の高い多様な保育環境を整備します。また、公共交通の利便性の低さからくる通学の不便さと経済的負担を改善する取り組みを通じて、町外に通学する子育て世帯の負担を軽減していきます。さらに、地域でのこどもを守り・育む環境づくりを進め、「子育てはうす ぱすてる」を中心に乳幼児やその保護者の交流の場を提供し、安心してこどもを生み育てられるまちづくりを行うとともに、教育力の強化、教育レベルの向上を図り、生きる力のあるこどもを育成していくなど、若い世代のＵＪＩターンにつなげます。

基本目標１　結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
施策１	子育て支援の充実
施策２	教育力の強化・教育レベルの向上

政策指標	基準値（R6）	実績値（R6）	数値目標（R11）
年間出生数	68 人	68 人	165 人
合計特殊出生率(ベイズ推定値)※	1.34　(H30-R4)	1.34　(H30-R4)	1.80
婚姻数（累計）	28 件	28 件	168 件

※合計特殊出生率（ベイズ推定値）:「人口動態保健所・市区町村別統計」　厚生労働省

図　合計特殊出生率の推移



近隣市町との比較

	H20～24	H25～29	H30～R4
大野町	**1.40**	**1.39**	**1.34**
岐阜県	1.49	1.52	1.43
岐阜市	1.44	1.49	1.42
大垣市	1.52	1.55	1.50
本巣市	1.45	1.39	1.33
揖斐川町	1.32	1.45	1.29
池田町	1.53	1.43	1.23
神戸町	1.39	1.47	1.36

《施策１》子育て支援の充実

本町において、こどもを産み育てやすいまちと思う町民の割合は57.5%と前回調査時より低下している状況です。通勤通学や買い物等の日常生活の移動に不便を感じている町民の割合は45.3%と依然として多い結果となっています。認定こども園の入所状況を見ると、子育て世帯の共働きの増加や核家族化などにより、低年齢児の入所希望が増加傾向にあり、柔軟な対応と効率的な運営、延長保育や一時保育、病児・病後児保育、要支援児保育などの多様な保育サービスの充実が求められています。また、児童虐待相談対応件数の増加など、子育てに困難を抱える世帯が顕在化してきている状況も見られ、子育て世帯に対する包括的な支援体制が必要となっています。

こうしたことから、第2子第3子の出生率アップや低年齢児の保護者のニーズに対応するため、公立認定こども園の統合や保護者の就労形態に合わせた保育事業の充実等、質の高い保育サービス基盤の整備を図ります。道の駅「パレットピアおおの」に隣接する「子育てはうす ぱすてる」において、乳幼児やその保護者の交流の場として、地域の子育て支援機能の充実を図っています。令和7年（2025年）4月には、母子保健・児童福祉を一体的に相談支援する「こども家庭センター」を庁舎内に設置しました。今後も、子育て中の保護者の孤独感の緩和やこどもの健やかな成長を促進していくとともに、児童の放課後対策、町民ニーズに応じた公共交通ネットワークの構築などにより、安心して子育てできる環境を整えていきます。

社会情勢やライフスタイルの変化により、晩婚化・非婚化傾向や出産年齢の高齢化の傾向がみられます。晩婚化・非婚化については、「ぎふマリッジサポートセンター」等の活用や県と連携した結婚支援相談体制の構築・充実、結婚新生活支援事業による婚姻に伴う新生活に係る支援を通して、結婚の希望をかなえられるようサポートしていきます。また、出産年齢の高齢化については、妊婦健診を充実させるなど、こどもを望む夫婦が安心してこどもを産み育てられる環境を整えていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①大野町はこどもを産み育てやすいまちと思う町民の割合	57.5%	62.0%
②「子育てはうす ぱすてる」入館者数	87人/日	100人/日
③認定こども園待機児童数	0人	0人
④放課後クラブ待機児童数	0人	0人

施策詳細	事業
(1) 保育サービス基盤の整備 保護者等利用者の就労形態をはじめ、生活実態やニーズを踏まえたサービスの充実に向けて、質の高い保育サービス基盤の整備を図ります。	○公立認定こども園の統合 ○保護者の就労形態に合わせた保育事業の充実（延長保育事業等）

施策詳細	事業
(2) 子育て支援事業の充実 こどもや保護者のニーズを反映した子ども・子育て支援事業計画を内包したこども計画を策定し、こどもを産み育てることに対する不安や悩みを軽減するため、子ども・子育て会議での議論を通じた子育て支援の充実を図ります。	○木育の推進 ○子育てに関する情報発信・相談の場の充実 ○「子育てはうす ぱすてる」における事業の充実 ○こども家庭センター（利用者支援事業）の充実
(3) 子育て支援情報の発信 「情報発信おおの」を活用した子育て世帯向けアプリの導入を検討します。	○子育て支援アプリの導入検討
(4) 要保護児童等への支援 要支援・要保護児童の家庭に対する指導の実施や相談のネットワーク構築などの体制強化を図ります。	○こども家庭センター（利用者支援事業）の充実
(5) 放課後対策の総合的な推進 放課後クラブについては小学１年生から６年生までを対象とした事業を継続するとともに、児童が放課後も安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう総合的な施策の推進を図ります。	○民間のノウハウを活用した活動内容の充実
(6) デマンドタクシーの運行充実 子育て世代が安心出来る公共交通ネットワークの構築に努めます。	○デマンドタクシーの運行実施・運行形態の拡充検討
(7) 結婚・出産の支援 ぎふ婚活サポートプロジェクトを活用した婚活イベントの情報提供や、町内事業所における独身従業員への婚活支援により、結婚の希望を支援します。 こどもを安心して産むことができるよう支援します。	○結婚支援の推進 ○出産支援の推進

《施策２》教育力の強化・教育レベルの向上

こどもが学校教育を通じて、社会生活の基礎となる確かな学力を身につけるとともに、良好な人間関係を築く力を身につけることができるよう、町非常勤講師として、スクールアドバイザー、教科支援員、特別支援アシスタント、心の相談員、ＪＴＥを配置し、少人数指導・ティームティーチング（ＴＴ）に取り組み学力の向上を図るとともに、「一人ひとりのこどもに応じた教育」に取り組んでいます。

令和２年度（2020 年度）には、ＧＩＧＡスクール構想に基づいて、学習用タブレット端末を児童生徒１人につき１台を貸与し、ＩＣＴの効果的な活用により、学習に対する興味や関心を更に高め、学習活動の充実に取り組みました。引き続き、ＩＣＴ支援員による訪問支援やオンライン授業の実施など、教員のＩＣＴ活用指導力の向上や主体的に学習に取り組む児童・生徒の育成のための効果的なＩＣＴ機器の利活用のための各種整備や支援を進めていきます。

また、豊かな心の育成のため、引き続き人権・道徳教育に取り組むとともに、今後は優れた芸術に触れる機会を設けるなど力を入れて取り組んでいきます。

加えて、安全・安心な学校を目指して、地域との協働による活動が重要となっており、学校運営協議会を通して、町の目指す「ふるさと大野で育んだ自信と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人」の実現のため、取り組みを充実させていく必要があります。

しかしながら、本町の児童生徒数は年々減少しており、将来において現在の教育環境を維持していくことが困難となることが想定されます。このような状況のなか、望ましい教育環境を維持するため、大野町小中学校のあり方外部検討委員会において検討が重ねられ、「望ましい学校教育を将来にわたって実現するためには、小学校１校、中学校１校に学校再編（統廃合）することが最適である。」との提言が示されました。今後は具体的な教育形態や施設規模等について、段階的な移行や柔軟な施設活用を考慮して検討を進めていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）		数値目標（R11）
①学力・学習状況調査　授業の理解度 （「授業の内容はよくわかりますか」が「はい」「どちらかといえばはい」の回答率）	小国	87.3%	85.0%
	小算	85.7%	85.0%
	中国	87.3%	85.0%
	中数	70.4%	75.0%

施策詳細	事業
(1) 小中学校のあり方検討 小学校１校、中学校１校の学校再編（統廃合）することが最適として学校規模の適正化を推進し、望ましい学校教育環境を確保していきます。	○小中学校の適正規模適正配置の推進

施策詳細	事業
(2) 確かな学力の育成 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ります。	○学校が主体となって取り組む学力向上プランの作成 ○個の学びに応じた学習の推進 ○学校の事務、行事の効率化（校務支援システムの活用推進）、スクールサポートスタッフの配置 ○英語教育の充実 ○ＩＣＴを利活用できる力の育成
(3) 生徒指導の充実 生徒の立場に立った生徒指導の実践により、不登校やいじめの解消、非行対策、教育相談の充実に努めます。	○いじめや不登校、問題行動への行政・学校が一体となった対応と教育相談体制の充実 ○心の教育の充実と望ましい人間関係を築く力や豊かな心の育成 ○教育支援センターの整備・促進
(4) キャリア教育・ふるさと教育の推進 幼児期から義務教育までの繋がりを大切にした教育の充実、地域・家庭・学校が一体となって、将来の「夢」や「希望」につながる体験学習を実施します。	○地域の環境や人材を活用した体験学習機会の充実によるふるさと教育とキャリア教育の推進
(5) 人権・道徳教育 自他の存在（いのち）を大切にする心の育成や、よりよく生きる人格の形成を目指す道徳教育を推進します。	○人権にかかわる教育活動の継続的な実施 ○児童生徒が主体的に関わり合う活動の実施 ○すべての教育活動と関連させ、児童生徒の状況にあった教材による道徳の実施 ○社会性を育むための異年齢・異世代交流の推進
(6) 特別支援教育の充実 特別支援連携協議会を中心に揖斐特別支援学校や関係機関との連携、通級指導による支援等の特別支援教育体制を整備します。児童生徒が適切な支援を受けるための体制を整備します。	○一人ひとりのニーズをより大切にした特別支援教育の推進 ○スクールアドバイザーを中心とした教諭・町非常勤講師の連携 ○ユニバーサルデザインを取り入れた教育環境の整備
(7) 教育環境の整備・充実 学校施設の老朽化への対応、設備の充実とともに、多様な学び方に対応した環境整備、ＩＣＴ機器を適切に更新し、さらに充実させていきます。	○各学校施設の老朽化対策 ○学校安全衛生基準に沿った適切な教育環境の整備 ○タブレット端末とＩＣＴ機器の適切な更新とＩＣＴ環境の維持向上

基本目標２　いつまでも健康の希望をかなえる（健康寿命をのばす）

高齢者で健康に暮らす人の割合は 84.0%となっており、更に健康寿命を延ばすには、高齢者の生きがいの場づくりや支援体制を充実していくこと、また中高年に比べ健康に対する意識が低い子育て・働きざかり世代（30 代・40 代）については、生活習慣病の予防やストレス解消、健康づくりの促進など若い世代に対する健康寿命の延伸に向けた取り組みが必要と考えられています。

高齢者が健康で活動的に暮らすことで、こどもの育みへの参加や経済的な支援など間接的に出生数の増加が期待されることからも、高齢者の活躍の機会の不足や高齢者を支援する体制不足を改善し、高齢者・子育て世代が心身ともに健康で、活動的に暮らせる体力増進に取り組みます。

また、弱みとなっていた専門医療機関・専門医師の不足の改善を図ることのできる総合病院（西濃厚生病院）が令和 5 年 10 月に開院しました。今後は更に連携を強化し、誰もが、身近な地域で安心して医療を受けられ、いつまでも健康で暮らすことのできるまちづくりを進めていきます。

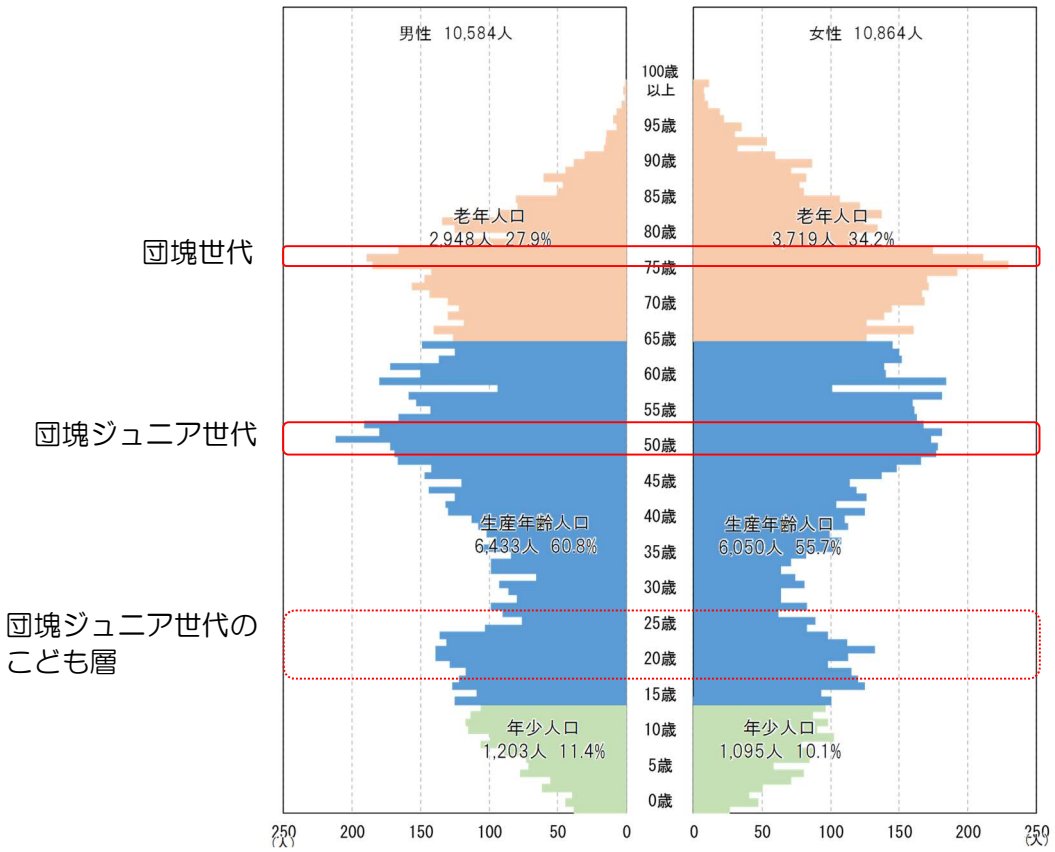
基本目標２　いつまでも健康の希望をかなえる

施策３　　健康寿命の延伸と体力増進

政策指標	基準値（R6）	実績値（R6）	数値目標（R11）
健康に暮らす人の割合 ※	84.0%	84.0%	85.0%

※ 65 歳以上で、要介護・要支援認定を受けていない方の割合

図　男女別１歳階級別人口（令和７年１月１日現在）



資料：
住民基本台帳

《施策３》健康寿命の延伸と体力増進

町民一人ひとりが健康であるまちづくりを目指して、スポーツ大会等の開催による健康づくり支援の充実と、ライフステージに合わせ、各世代の特徴や対象年齢に応じた健康診査・訪問・相談・教室など各種健康に関するサービスの推進により、健康に関する意識の向上に努めています。

令和５年度（2023 年度）に行った第３次大野町健康増進計画策定に係るアンケート調査では、令和元年度（2019 年度）の調査時より、運動をしている人の割合が多くの世代で増加している一方、朝食欠食率が悪化している世代が多くなっているなど、町民が自発的に生活習慣の改善に取り組めるよう支援する環境や体制づくりを検討する必要があります。また、健康診査やがん検診の受診率が低下しているため、受診しやすい環境を整備していく必要があります。

本町では 65 歳以上の高齢者が増加し、高齢者夫婦のみの世帯や高齢者単身世帯が増加しており、高齢者のひきこもりを誘引する可能性があります。他の世代においても、複雑化する社会の中でうつ病などのこころの病気が増加傾向にあるため、こころの健康づくりの重要性も高まっており、町ではこころの相談会や自殺予防のためのゲートキーパー養成講座の開催などを行っています。

こどもから高齢者までが時間や場所を気にすることなく気軽に取り組むことができ、世代間の交流も図ることができるノルディックウォーキングを主たるツールとして活用し、本町が持つ豊かな自然環境や地域資源を活かしながら、健康づくりと新たな地域の創生に取り組んでいきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①健康づくり等講座開催数・参加者数	63 回 934 人	55 回 1,000 人
②成人の特定健診受診率（40 歳～74 歳）	36.2%	41.0%
③高齢者の健診受診率（ぎふ・すこやか健診）（75 歳～）	36.2%	40.0%
④ゲートキーパー養成講座受講者数（累計）	322 人	800 人
⑤認知症サポーター養成講座受講者数（累計）	1,691 人	2,100 人
⑥スポーツ・レクリエーションイベント参加者数	2,425 人	2,500 人

施策詳細	事業
(1) 健康づくりの推進 生活習慣病をはじめとする疾病予防対策として、身軽で気軽に参加できる健康講座やイベント等を開催し、健康に関する意識の高揚を図ります。 幼児期からの生活習慣病予防に取り組み、生涯にわたって健全な食生活を送れるよう食育を推進します。 こころの健康についての知識の普及、啓発に努めるとともに、相談窓口の充実や周知など、こころの健康づくりを推進します。	○健康講座やイベント等の開催 ○運動できる環境の整備 ○食育の推進 ○こころの健康づくりの推進

施策詳細	事業
(2) 保健サービスの充実 生活習慣病等の早期発見、早期治療のための健康診査やがん検診等の内容充実を図るとともに、健康ポイントや検診予約システムの導入など、受診しやすい環境の整備に努めます。	○各種検診等の充実や受診環境の整備
(3) 介護予防事業の強化 地域活動への働きかけや、介護予防教室の開催を通じて、介護予防の啓発活動を強化し、体力づくりや生きがいづくりを推進します。	○介護予防の充実
(4) 高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進 高齢者の交流の場の提供や社会参加しやすい環境づくりを進め、早期の予防に注力し高齢者の生きがいづくりを支援します。	○地域を拠点とした教室、サークル活動の参加促進
(5) 高齢者への情報提供や相談体制の充実 高齢者に必要な福祉サービスを適切に提供するため、情報提供や相談体制を充実します。	○相談窓口の運用、高齢者サービス情報の発信
(6) 地域支援体制の充実 可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、「介護」「予防」「医療」「生活支援」「住まい」の５つのサービスを包括的、継続的に実施し、充実した地域包括ケア体制の構築に努めます。また、認知症への理解を深め、認知症の人や家族に対してあたたかい「応援者＝認知症サポーター」の養成を推進します。	○地域ケア会議等の開催 ○関係機関との連携 ○地域福祉ネットワークの強化
(7) スポーツ・レジャー施設の整備 老朽化する既存体育施設の維持管理及び町民の需要に沿った施設の新設を含めた整備について検討します。	○総合体育館などスポーツができる環境の整備検討 ○運動公園の再整備
(8) スポーツ活動の振興 スポーツ、レクリエーションへの町民の関心を広く涵養し、生涯スポーツ、高齢者の健康づくりや障がい者スポーツなど、多様なスポーツ活動が実現されるよう、フォローアップを行います。	○スポーツ交流の促進 ○生涯スポーツプログラムの構築・スポーツ教室の開催 ○体育団体の活動支援
(9) スポーツ施設の維持管理と利用促進 施設利用手続きの適正化と充実を図るとともに、ポータルサイトによる利用者への情報提供に努め、町民が利用しやすく効率的に体育施設を維持･管理します。	○ポータルサイトによる利用者への情報提供拡大 ○町民が利用しやすい施設管理

基本目標３　住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえる（移住定住の促進）

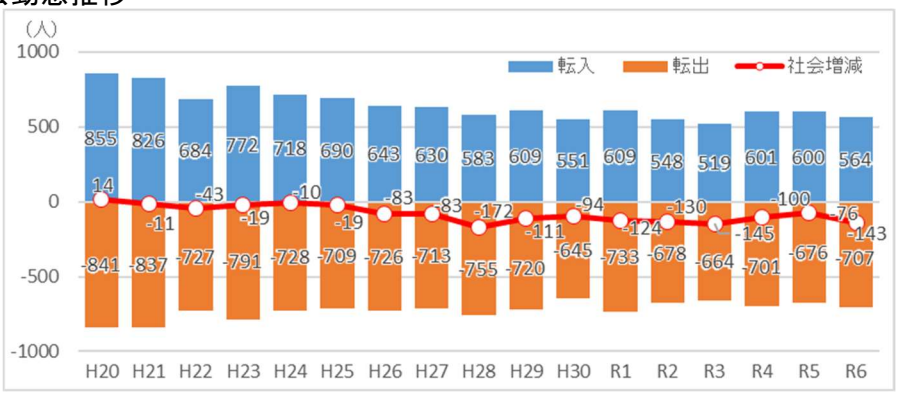
本町の社会動態は継続的な転出超過状態であり、中でも 15～34 歳の若年層の転出傾向が顕著な状況にあることから、住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえるためには、本町の弱みとなっている公共交通の利便性の向上や身近に親しめる歴史的資源などにより、現在、在住される方の町に対する愛着を育みながら、町内外に住みやすさを積極的に情報発信することにより町の魅力向上を図ることが重要です。

移住定住の促進に向けた課題に対し、本町の強みである自然豊かな住環境や比較的安価な地価、豊富な歴史的資源を活かした特色あるまちづくりを進め、経済的なゆとりと快適で文化的な暮らしができることをアピールしていきます。また、引き続き公共交通の利便性の向上を図るとともに、移住定住施策の更なる展開により町民の定住を促し、町外からの転入を促進します。

基本目標３　住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえる	
施策４	地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大
施策５	タウンプロモーションの展開
施策６	定住環境としての魅力向上
施策７	郷土愛の醸成・特色あるふるさとづくり
施策８	地域活動の活性化
施策９	公共交通の充実
施策 10	地域福祉の充実
施策 11	移住・ＵＪＩターンの促進

政策指標	基準値（R6）	基準値（R6）	数値目標（R11）
若年層(15～34 歳)転出入者数	146 人の転出超過	146 人の転出超過	73 人の転出超過
参考値　若年層(15～34 歳)転出入者数(日本人のみ)	198 人の転出超過	198 人の転出超過	－

図　社会動態推移



資料：岐阜県人口動態統計調査

《施策４》地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大

本町は、バラ苗や富有柿等の特産品、旧北岡田家住宅や史跡野古墳群等の地域資源はあるものの、特産品を利用した通年販売できる商品が少ないことや、一年を通じた観光施設の不足等の課題がありました。

しかしながら、平成 30 年（2018 年）に、道の駅「パレットピアおおの」が開駅したことで、観光交流の拠点が整備され町内外から多くのお客様に来場いただき、観光入込客数は、平成 30 年（2018 年）の 562,310 人から令和 4 年（2022 年）には 471,729 人とコロナ禍の影響により大幅に減少しましたが、現在は、新型コロナウイルス感染症流行前を上回る入込客数が見込まれ、道の駅「パレットピアおおの」は、来場者数が累計で 250 万人を突破しました。また、特産品についても、「大野の太鼓判」特産品認定事業をはじめとした「おおの特産市場プロジェクト」の取り組みにより、令和６年度（2024 年度）末現在で 20 点が特産品として認定され、大野町らしさを感じていただくうえで大きな効果を果たしています。

今後も引き続き、道の駅「パレットピアおおの」を拠点として、観光面では町内の文化財をはじめとする観光資源を周遊する観光ルートを設定しつつ、令和元年（2019 年）12 月に開通した大野神戸ＩＣを活かし、西美濃圏域の玄関口として近隣市町と連携した広域的観光ネットワークを構築することで、交流人口・関係人口を増やして人やモノを呼び込み、地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大を図っていきます。商工業の面では、道の駅「パレットピアおおの」の地域振興施設において、新たな特産品・農産品の開発や販売ルートの確立等を進め、大野の太鼓判やおおのブランド野菜の充実を図ります。また、テクノパーク大野をはじめとした企業誘致を推進・整備し、雇用の創出や産業の振興を図っていきます。

また、福祉・防災・公共交通など本町が抱える課題を踏まえ今後の対策を見据えながら、生涯学習・子育て支援の場としての利用や広域防災拠点としての整備等必要な機能を備えるとともに、道の駅「パレットピアおおの」から名古屋駅までを結ぶ高速バス「にしみのライナー」を利活用し、公共交通利用者の増加や利便性向上に繋がる施策を展開し、定住環境としての魅力向上、移住定住の促進に繋げていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①観光入込客数（大野町全体）	61.4 万人	62.0 万人
②特産品の試作品数（累計）	34 品	39 品
③おおのブランド野菜の認定数（累計）	5 品種	6 品種
④名鉄廃線敷再生プロジェクトによる施設整備の満足度	55.6%	61.0%

施策詳細	事業
(1)「おおの魅力創出」交流人口拡大プロジェクト 大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業を中心とした町の活性化が進む中、高齢化による農業担い手不足、遊休農地の増加が問題となっています。このため、アグリパークやものづくり体験、農業体験などの体験型観光を推進することで、観光客誘致や二地域居住といった交流人口を拡大させる取り組みに加え、食材や景観等の地元資源を磨き上げ、新たな魅力を創出する事業モデルの構築など、人口減少の影響を緩和し、地域の活力を取り戻す取り組みをしていきます。	○「子育てはうす ぱすてる」の充実 ○道の駅「パレットピアおおの」における農産物直売販施設への支援 ○観光情報発信の充実 ○道の駅「パレットピアおおの」を中心とした観光拠点整備 ○大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業の更なる推進 ○主要駅への直行便の検討、高速バスの路線維持･拡充検討 ○遊休農地の解消 ○農地の集積・集約化 ○担い手・認定農業者の確保・育成 ○６次産業化に向けた支援 ○農業生産基盤整備の推進 ○ＧＡＰやＨＡＣＣＰ等の認証取得に向けた支援 ○「大野の太鼓判」特産品認定事業（個店の魅力化促進） ○フラワー都市交流連絡協議会等の交流自治体との連携強化 ○食育の推進と学校給食の充実 ○名鉄廃線敷を活用した災害時の避難路の整備 ○名鉄廃線敷等を活用した自転車道・歩道の整備

《施策５》タウンプロモーションの展開

本町には、揖斐川、根尾川の清き水と北部山麓に広がる緑の美しい山並みなどの豊かな自然や国指定史跡野古墳群などの歴史的遺産が数多く点在し、それぞれの施設が独自の魅力、可能性を持っています。それらの地域資源を活用するため、道の駅「パレットピアおおの」には、町内各地に点在する観光施設の場所や、観光案内を表示した観光案内サインを設置したり、ウォーキングルートを設定しルートサインを設置したりするなど、観光客が回遊しやすい環境の整備を進めています。また、町民も含めて町の魅力の再発見や健康増進への効果も期待されます。

令和 2 年度（2020 年度）には、観光ボランティアガイド「美濃大野発見ガイド隊」が発足し、観光情報の発信、ガイドツアーの実施等、若い世代へ文化の伝承につなげる活動がスタートしています。

加えて、西美濃圏域を一体とした広域的な観光ルートづくりを進め、更なる観光資源の発掘を視野に入れたプロモーションを展開することで、交流人口・関係人口を増やし、人やモノを呼び込み、地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大を図っていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①観光入込客数（大野町全体） 再掲	61.4 万人	62.0 万人
②西美濃圏域における観光入込客数	1,207 万人	1,480 万人
③町ホームページのアクセス件数	67,851 件/月	80,000 件/月

施策詳細	事業
(1)「おおの魅力創出」交流人口拡大プロジェクト 大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業を中心とした町の活性化が進む中、高齢化による農業担い手不足、遊休農地の増加が問題となっています。このため、アグリパークやものづくり体験、農業体験などの体験型観光を推進することで、観光客誘致や二地域居住といった交流人口を拡大させる取り組みに加え、食材や景観等の地元資源を磨き上げ、新たな魅力を創出する事業モデルの構築など、人口減少の影響を緩和し、地域の活力を取り戻す取り組みをしていきます。	○広域的観光ルート（西美濃夢源回廊等）の開拓 ○観光情報発信の充実 ○道の駅「パレットピアおおの」を中心とした観光拠点整備 ○「大野の太鼓判」特産品認定事業（個店の魅力化促進） ○フラワー都市交流連絡協議会等の交流自治体との連携強化 ○大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業の更なる推進 ○既存公園の適正な維持管理 ○大野町文化財保存活用地域計画の策定の取り込み ○旧北岡田家住宅の保存・活用 ○史跡野古墳群の保存・活用 ○博物館施設の整備、活用 ○農業を活かした「新たな魅力の創出」を図る産業振興施設整備の検討 ○温泉施設の整備検討

施策詳細	事業
(2) 観光ネットワークの構築 観光ニーズの多様化を踏まえ、イベント、歴史、自然、伝統文化を活かした西美濃圏域を中心とした広域的観光ルートの開拓を進めます。 町内の主要な観光施設においても、相互の連携や回遊性の向上、町外施設等との連携による魅力向上などを図ります。また、町内の主要な交通結節点や観光施設等において、ユニバーサルデザインに配慮したわかりやすく本町の魅力を発信する案内サイン等の整備を推進します。 インターネット、ＳＮＳ等の各種媒体を活用し、道の駅「パレットピアおおの」をはじめ、観光情報発信の充実を図ります。 名鉄廃線敷をサイクリングロードなどの観光資源として活用します。	○広域的観光ルート（西美濃夢源回廊等）の開拓 ○町内観光施設の回遊性向上・観光ルート・散策モデルコースづくり ○観光情報発信の充実 ○名鉄廃線敷の活用

《施策６》定住環境としての魅力向上

本町は北に山地があり二河川に挟まれた逆三角形の地形でありながら、大きな災害や事故等もなく緑豊かな自然に恵まれた土地として発展してきました。しかし、近年において、近く起こるとされる南海トラフ地震の地震防災対策推進地域としての指定を受け、また、全国的には台風や異常気象によるゲリラ豪雨などの自然災害により甚大な被害も発生しており、今後は、あらゆる災害に対する防災対策を進めるとともに、誰もが住みたい魅力あるまちとして、居住環境の向上を図っていく必要があります。

これらのことを踏まえ、まちとしての魅力の向上を図るために、道の駅「パレットピアおおの」を観光拠点と一体となった防災拠点として整備しました。災害時の支援物資受け入れや自衛隊などの活動拠点となる県の広域防災拠点に指定されており、飲料水兼用耐震性貯水槽やマンホールトイレ等の防災機能を有した施設となっています。

大野神戸ＩＣの開通や道の駅「パレットピアおおの」に接続する幹線道路網整備等による緊急輸送道路の確保をはじめとする交通利便性の向上、また、名鉄廃線敷を緊急時の避難路として活用することによる防災力の向上等を推進するとともに、地域防災力の向上を図るために自主防災組織の活動支援や防災教育の実施に力を入れて取り組みます。

近年増加がみられる空き家においても、空き家バンクの活用による情報提供や、空き家対策に関する施策として改修・除却に対する費用補助を実施するなど空き家の利活用の促進に取り組んでおり、現在実施している移住定住補助金制度や木造住宅耐震化支援事業等の移住定住施策とあわせて引き続き定住環境向上施策についても推進していきます。

また、環境施策についてもエコタウンおおの基本計画（第三次大野町環境基本計画）に基づき、環境と共生した持続可能なまちづくりを目指した施策に取り組み、居住したいまちの魅力づくりを行っていくことで本町の強みである定住環境としての魅力向上を図っていきます。令和３年（2021 年）12 月には「ゼロカーボンシティ宣言」により、豊かな自然環境と経済が調和し、町民が快適に、また安心して住むことができる環境を次世代に引き継ぐため、2050 年までに二酸化炭素排出を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①空き家の活用（累計） （空家等改修補助金・除却補助金の交付件数）	11 件	49 件
②防災啓発（教育）活動における受講者数（延べ人数）	557 人	1,000 人
③防災士補助活用人数	60 人	81 人
④汚水処理人口普及率	91.9%	94.5%

施策詳細	事業
(1) 空き家の有効活用 近年増加がみられる空き家について、地域との協働により、住環境の改善、防犯対策の観点から対策を実施します。	○空き家活用の実施

施策詳細	事業
(2) 定住環境向上施策の推進 良質な民間住宅の立地支援策や移住定住施策と連携した新築住宅取得支援を推進します。また、南海トラフや内陸直下型による巨大地震による被害が懸念されている中、被害軽減のため、旧耐震基準の木造住宅の耐震化を支援します。	○省エネルギー・再生可能エネルギー設備設置助成 ○木造住宅耐震化への支援
(3) 防災拠点・緊急輸送道路等の整備 名鉄廃線敷の有効活用等により、町及び広域的な防災拠点等の整備を図ります。 災害時の避難路として利用する名鉄廃線敷や、緊急輸送道路、河川、水路等の整備を引き続き図ります。	○名鉄廃線敷の有効活用による防災力の向上 ○緊急輸送道路等の整備
(4) 防災意識の高揚及び地域防災活動の充実 地域、事業所の自主防災組織との協働による防災訓練の実施、こどもを対象にしたクラブ活動の実施等を通じて防災意識の高揚を図るとともに、地域の実情に応じた防災体制を育成します。 防災力の向上と減災の活動を普及するため、十分な意識・知識・技能を有する防災士の育成支援を図り、地域の防災リーダーを育てます。	○防災訓練の実施 ○防災啓発活動 ○防災士の育成支援 ○火災予防活動
(5) 広域幹線道路の整備 交通ネットワークの構築と安全で快適な道づくりのため、積極的に広域幹線道路の整備促進に向けた取り組みを進めます。また、東海環状自動車道の早期整備促進及び大野神戸ＩＣへのアクセス道路など、幹線道路の整備促進に向けた取り組みを進めます。	○大野神戸ＩＣから町内外の各拠点を結ぶ広域的な道路網の整備 ○揖斐都市計画道路整備に関する県への強い要望と早期完了
(6) 生活道路・散策道の整備 地域住民の利便性と安全性に配慮し、歩道整備を含めた人にやさしい道路づくりを推進します。 名鉄廃線敷を有効活用し、通学路や日常の散歩道、災害時の避難路として安全に安心して利用できる自転車道・歩道を整備します。	○通学路を中心とした歩道整備の推進 ○人にやさしい道路づくりの推進 ○名鉄廃線敷等を活用した自転車道・歩道の整備

施策詳細	事業
(7) ゼロカーボンシティへの取り組み 温室効果ガスの排出抑制や吸収作用の保全・強化を促進するとともに、太陽光発電システムの設置などによる自然エネルギーの導入促進を図り、持続可能な低炭素社会の構築に向けた取り組みを進めます。 環境に配慮したＬＥＤ灯の設置を推進します。	○住宅用太陽光発電システム設置に対する補助金交付の継続 ○広報紙等による太陽光発電システム設置のＰＲ ○エネルギーステーションの整備 ○町有地等を活用した太陽光発電設備導入の推進
(8) 汚水処理施設の整備 西濃地域循環型社会形成推進地域計画に基づき設置補助を継続することにより、高度処理型合併処理浄化槽の設置を推進します。また、集合型への補助金交付制度を国や県に強く働きかけます。	○個人設置及び集合型の高度処理型合併処理浄化槽の普及、推進、補助金制度の継続

《施策７》郷土愛の醸成・特色あるふるさとづくり

本町は、国宝絹本著色五大尊像をはじめとする国・県・町指定・登録文化財が 162 件（令和 7 年（2025 年）5 月現在)、史跡野古墳群など埋蔵文化財包蔵地 96 カ所、町の 2 分の 1 を占める古代条里制の跡など、歴史遺産の宝庫であり、豊臣秀吉の軍師竹中半兵衛や幕末の志士所郁太郎など歴史上大きな働きをした先人も輩出しています。

大野の条里シンポジウムの開催や嚶鳴フォーラムへの参加等により、町の歴史遺産の魅力やこれまでの調査成果は着実に評価されつつあり、引き続き町内での認知度や価値・魅力に対する理解度を高め、歴史や文化財を大切にしようとする機運の高揚や郷土愛の醸成につなげていく必要があります。

今後は、文化財の持つ魅力を引き出すために、文化財マップや文化遺産カードなどを作成し、地域資源として町内外に情報・魅力を発信していきます。また、埋蔵文化財を中心に町が保有する歴史資料の常設展示・公開を行う施設として、大野町埋蔵文化財センター（大野あけぼのミュージアム）や旧北岡田住宅を整備し、近年の映像技術（プロジェクションマッピング）を用いた展示や企画展の開催など、郷土学習や観光振興の拠点として活用しています。さらに、観光ボランティアガイドによる文化財をめぐる観光ガイドツアーを実施し、観光資源として文化財を活用し、その魅力を町内外に発信しています。

文化財保護の意識向上を図るとともに、文化財を地域資源・観光資源として評価し積極的に活用することを通して、郷土愛の醸成に繋げていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①町の歴史や文化に興味がある町民の割合	40.0%	43.0%
②歴史や伝統文化に係る活動への参加者数	570 人	570 人
③郷土博物館（大野あけぼのミュージアム）の年間来場者数	1,124 人	1,200 人

施策詳細	事業
(1) 文化財の保存・活用 貴重な文化遺産を後世に伝えるため、文化財の管理、保全に努めるとともに、長期的展望に基づく全ての文化財の保存・活用施策を位置づけます。 史跡野古墳群の都市公園化を進め、面的指定と農村景観の保全を図るとともに、上磯古墳群の史跡指定に向けての取り組みを進めます。 文化財を観光資源として積極的に活用し情報発信することで、文化財保護の意識向上と地域資源として魅力向上を図ります。	○大野町文化財保存活用地域計画の策定の取り組み ○旧北岡田家住宅の保存・活用 ○史跡野古墳群の保存・活用 ○上磯古墳群の史跡指定に向けての取り組み

施策詳細	事業
(2) 教育・普及・啓発の充実 郷土の歴史・文化遺産に対する理解を深めるとともに、文化財の周知や文化財保護意識の啓発を通して、町民の郷土に対する誇りや愛着を涵養します。 埋蔵文化財センター（通称：あけぼのミュージアム）や、旧北岡田家住宅の博物館機能の充実と、活用を促進します。	○郷土の先人顕彰事業 ○学校教育・社会教育における郷土学習の充実 ○歴史・文化財情報の普及促進 ○博物館施設の整備、活用

《施策８》地域活動の活性化

地区、自治会では高齢化、小規模化、独居高齢世帯の増加、空き家の増加といった地域課題が多様化し、今後、地域コミュニティの維持や運営に支障をきたすことが懸念される状況となっています。人間関係や地域のつながりが希薄になる中、こうした課題に対応し、持続可能なまちづくり及び地域活動の活性化を図るためには、地域住民が気軽に集い、世代を超えた交流や情報共有ができる場としてふれあいセンター（コミュニティセンター）の活用をさらに促進していくことが重要です。ふれあいセンター（コミュニティセンター）では、各種講座やイベントの開催、サークル活動の支援に加えて、福祉・防災など新たな活動も含めた地域活動の拠点とすることで、住民同士の顔の見える関係作りを推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①日頃から隣近所の人たちと付き合いや交流がある町民の割合	65.6%	70.0%

施策詳細	事業
(1) 誰もが身近な地域の問題に関心を持ち、「地域力」を高めるまちづくりの推進 住民の福祉意識の醸成、住民や地域の団体など地域の資源を最大限に活用し、地域福祉活動を促進することで、みんなで支えあう地域を目指します。	○地域での交流の促進 ○地域や学校における福祉教育の充実 ○地域福祉ネットワークの強化
(2) 社会教育・地域コミュニティ活動の推進 ふれあいセンター（コミュニティセンター）を拠点に、地域の自主的なコミュニティ活動を促進、地域課題の解決を図ります。 地域と学校が連携・協働して、地域全体でこどもたちの成長を支えていく地域学校協働活動の推進を図ります。 ふれあいセンター（コミュニティセンター）を拠点とする世代間交流事業を支援し、地域ぐるみの青少年健全育成を支援します。 ＶＹＳなど若者を構成員とする団体に対する支援を強化し、自主的な活動を促します。	○地域ぐるみの青少年育成の推進 ○ふれあいセンター（コミュニティセンター）を拠点とする世代間交流事業の促進 ○地域コミュニティ活動の推進 ○地域学校協働活動の推進 ○青年活動団体への支援強化

《施策９》公共交通の充実

本町は近隣する都市への通勤圏地域として、比較的安価な土地というメリットを活かし移住支援策を促進してきましたが、名鉄の廃線により、通勤・通学などを主な目的とし、重要な役割を果たしてきた区域外への移動手段の確保が困難となったことで、町内を含め区域外へのアクセスの充実など公共交通の利便性を向上させることが最大の課題として浮き彫りとなりました。

これらの課題を解決するため、町内においては、デマンドタクシー「あいのりくん」の停留所の増設や、混雑時における増便の導入など改善を図りました。また、町外へのアクセスについては、道の駅「パレットピアおおの」の開駅に併せて、岐阜バスの大野忠節線の延伸、名阪近鉄バスの大垣大野線の一部ダイヤについて乗り入れを開始し、また、瑞穂市、本巣市、北方町と構成する 2 市 2 町広域公共交通連絡会議での協議を元に、大野穂積線の快速便を導入するなど、公共交通の利便性向上に取り組むとともに、路線バス等の公共交通機関を利用していただくために、高校生の通学定期券等の購入補助など公共交通機関の利用促進にも力を入れて取り組んでいます。

しかしながら、町民アンケートでは、依然として公共交通の満足度は低い結果となっています。課題の改善を図るため、今後のまちづくりの観点から路線バス、デマンドタクシー、高速バス、コミュニティバス等を総合的に検討し、本町の公共交通のあり方や対応方針を定めた大野町地域公共交通計画を策定しました。そして、令和 3 年（2021 年）7 月には、名古屋方面への重要なアクセス手段となる、道の駅「パレットピアおおの」と名古屋駅を結ぶ高速バス「にしみのライナー」の実証実験としての運行が開始され、広域移動の利便性向上など様々な効果が期待されています。本町としても回数券購入助成事業を実施する等、高速バスの利用促進に取り組んでいます。今後も多様化する住民生活のニーズにきめ細やかに対応できる地域特性に応じた公共交通ネットワークの実現に向けて、運行事業者、近隣市町等と連携しながら取り組んでいくことで、公共交通の充実に繋げていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①あいのりくん・あいのりくんプラス利用者数	11,956 人	13,000 人
②デマンドタクシー自宅前登録者のうち１年以内に利用したことがある人の割合	19.0%	24.0%
③町内バス停の年間利用者数	41,520 人	50,000 人
④通勤通学や買い物等の日常生活の移動に不便を感じている町民の割合	45.3%	42.0%

施策詳細	事業
(1) 既存路線バスの運行充実 大野バスセンター及び道の駅パレットピアおおのから鉄道の主要駅までの移動手段として、また通学の交通手段として重要なバス交通について、バス事業者と連携し路線や運行の充実を図ります。	○ダイヤの調整
(2) 交通ネットワークの整備 町民の広域生活圏である名古屋市、岐阜市、大垣市等へのアクセスを考慮し、大野バスセンター及び道の駅パレットピアおおのを中心に、生活に密着した公共交通ネットワークづくりを推進します。また、主要駅への直行便、高速バスの運行についても検討します。 町民のニーズとまちづくりの観点を踏まえ、町民、運行事業者、近隣市町村等と連携しながら、地域特性に応じた公共交通ネットワークの構築に取り組みます。	○主要駅への直行便の検討、高速バスの路線維持・拡充検討 ○路線バスの路線維持・拡充
(3) バス利用促進のための環境整備 バス利用を促進するため、キャッシュレス決済などの利用環境の向上を図るとともに、利用補助の拡充を図ります。	○バス停留所の整備 ○通学定期券等の購入費用に対する助成制度の推進 ○高速バス助成の推進 ○キャッシュレス決済の導入検討
(4) デマンドタクシーの運行充実 町デマンドタクシーについて、運営や運行方法に対しての町民ニーズを的確に把握し、更なる利便性の向上に努めます。 西濃厚生病院へのアクセス向上を図ります。	○デマンドタクシーの運行実施・運行形態の拡充検討 ○タクシー利用助成の実施

《施策 10》地域福祉の充実

本町も核家族化や少子高齢化が進み、家庭だけで家族の地域生活を支え続けられない世帯が増加しています。これまで、民生委員・児童委員、福祉委員、日赤奉仕団、自治会等の持つ「地域の力」で、行政と連携し、地域交流サロンの実施や見守り活動を中心とした支援活動を行ってきました。今後も、そういった活動とあわせて、新たに各地区で開催する「支えあいの会」を通して地区の実情に応じた支えあい体制を構築し、地域住民同士が助けあい、支えあう意識を高めることで、「地域に見守られている」という安心感を得ながら、地域での生活を送ることができるよう、また災害等有事の際に助け合う見守りネットワークの強化を図ることを推進します。

また、一つの世帯で複数の課題を抱えている等、住民からの相談内容の複雑化・複合化も見られるようになりました。この状況に対応するため、関係機関が連携し分野を超えた重層的支援を行う体制を整備します。

必要とする福祉サービスを必要とする人が取捨選択し、地域生活での不便を解消できるような相談支援を含む支援体制や、地域生活支援事業や自立支援事業、療育支援をはじめとした障がい者（児）福祉事業の充実を図り、地域生活支援を推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①地域交流サロンでの交流者数	4,643 人	4,500 人
②日頃から隣近所の人たちと付き合いや交流がある町民の割合　再掲	65.6%	70.0%
③避難行動要支援者名簿登録者における個別避難計画の作成者数	278 人	400 人

施策詳細	事業
（1） 誰もが暮らしの問題を気軽に相談できる体制の構築 既存の相談支援や地域づくり支援の取り組みを活かしながら、高齢・障がい・こども・生活困窮といった分野別の支援では対応できないような地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、抱える生活の問題について相談でき、地域の支援者や相談機関や行政内の連携を図り、重層的支援体制を充実します。	○重層的・包括的な相談支援体制の構築 ○福祉施策・福祉サービス基盤の充実 ○生活に困難を抱える人への支援
(2) 障がい福祉サービスの充実 障がい福祉サービスの利用促進と充実を図り、障がい者の自立支援を推進します。	○障がい福祉サービスの促進と充実 ○非営利組織による公的制度外の生活支援サービスの推進 ○多様な媒体を活かした福祉サービス内容の周知

施策詳細	事業
(3) 誰もが安全・安心に暮らせる環境づくり 地域のだれもが日頃から地域で助けあうことのできる災害に強いまちづくりを進めます。また、移動や居住の支援など生活に対する支援や一人ひとりの尊厳や権利の保障、虐待の防止、再犯防止など地域で安心して暮らせる環境をつくります。	○災害時の支援体制の強化 ○安全・安心のまちづくりの推進 ○権利擁護と虐待防止対策の推進

《施策 11》移住・ＵＪＩターンの促進

本町は、岐阜市・大垣市から車で約３０分の距離にあり、土地も近隣市街地に比べ比較的安価であることから、社会動態では住宅事情を理由に町外から転入する人が多く、住宅選好における優位性があることがうかがえます。

しかしながら、高校生や大学生の通学においては、名鉄揖斐線の廃線の影響が大きく、岐阜市方面や大垣市方面に路線バスが走っているものの、運行本数や最終便の運行時間、速達性といった点で不満を感じている方が多くいる状況です。

また、近隣に大学や働く場が限られていることから、町を離れる人も多いのが現状であり、進学や就職で町を離れた人にいかに戻ってきてもらうかが課題となっています。

これらの課題を踏まえ、道の駅「パレットピアおおの」を町内外への情報発信の拠点として活用するほか、ＳＮＳによる広報や移住定住イベントへの出展など幅広い媒体を利用して、本町の良質な住環境など町の魅力を広くアピールします。さらに、公共交通の利便性の向上や子育て世代が安心してこどもを産み育てられる環境の充実に取り組んでいくことで、町外・県外からの移住や、町を一度離れた人のＵＪＩターンの促進に繋げていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①新築住宅の移住定住補助金交付件数（累計）	53 件	350 件
②空き家の活用（累計）　再掲	11 件	49 件

施策詳細	事業
(1) 移住定住施策の推進 新築住宅の移住定住補助金制度等の推進、移住定住に関する相談窓口の充実や、ＳＮＳや移住定住イベントを活用した広報により、住みやすさをアピールし、町内への移住定住を促進します。 Ｕ･Ｊ･Ｉターン等での定住を促進するため、将来の担い手となる若者たちへの支援を検討します。	○新築住宅の移住定住補助金制度等の推進 ○通学定期券等の購入費用に対する助成制度の推進 ○移住定住相談窓口の充実 ○子育て支援世帯への住宅取得・改修補助の導入検討 ○大野町学生奨学金返還支援事業の導入検討
(2) 定住環境向上施策の推進 良質な民間住宅の立地支援策や移住定住施策と連携した新築住宅取得支援を推進します。また、南海トラフや内陸直下型による巨大地震による被害が懸念されている中、被害軽減のため、旧耐震基準の木造住宅の耐震化を支援します。	○省エネルギー・再生可能エネルギー設備設置助成 ○木造住宅耐震化への支援

基本目標４　働きたいという希望をかなえる（地域産業の活性化）

町内の働く場が減少するなか、職住近接で働きたいという町民の希望をかなえるためには、新産業の誘致とともに、地域資源の有効活用や道の駅「パレットピアおおの」の活用が課題となっています。

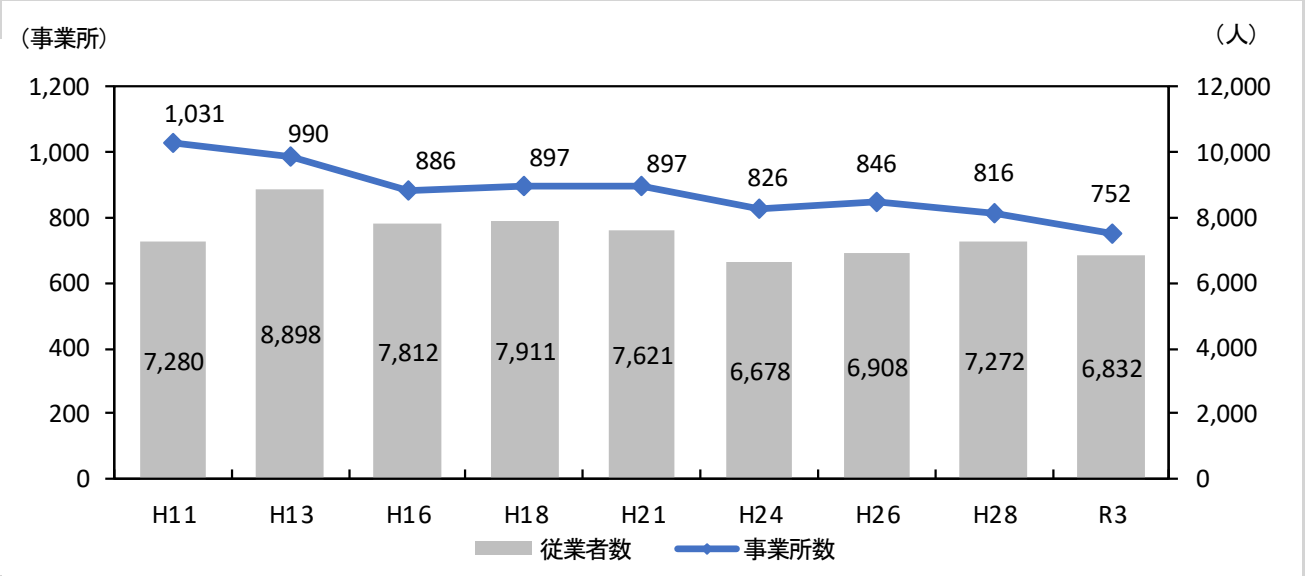
これら雇用創出に向けた課題に対し、大野神戸ＩＣの開通により、本町の強みとなる広域での交通利便性と西美濃圏域の玄関口としての立地を最大限に活かし、テクノパーク大野や集客拠点として期待される道の駅「パレットピアおおの」を中心とした周辺地域への企業誘致を推進しています。令和５年（2023 年）10 月に西濃厚生病院が開院し、また令和７年度（2025 年度）にはイビデン㈱の新工場が一部操業を開始するなど新たな雇用の創出、地域産業の活性化には大きな期待が持たれています。また、６次産業化の推進などによる地域産業の活性化を図り、地域資源の活用不足という弱みを改善するために、道の駅「パレットピアおおの」等を活用しながら取り組んでいきます。

基本目標４　働きたいという希望をかなえる
施策 12　地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大　【再掲】
施策 13　新産業の創出・商工業の振興
施策 14　農業の活性化・担い手育成

政策指標	基準値（R6）	実績値（R6）	数値目標（R11）
町内事業所における従業者数	6,832 人（R3）	6,832 人（R3）	7,200 人
納税義務者１人あたり所得※	326.6 万円	326.6 万円	343.2 万円

※「市町村税課税状況等の調」（総務省）より算出

図　事業所数・従業者数の推移



資料：平成 3～18 年　事業所・企業統計調査　　平成 21 年，平成 26 年　経済センサス基礎調査
平成 24 年，平成 28 年，令和 3 年　経済センサス活動調査

再　掲

《施策 12》地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大

本町は、バラ苗や富有柿等の特産品、旧北岡田家住宅や史跡野古墳群等の地域資源はあるものの、特産品を利用した通年販売できる商品が少ないことや、一年を通じた観光施設の不足等の課題がありました。

しかしながら、平成 30 年（2018 年）に、道の駅「パレットピアおおの」が開駅したことで、観光交流の拠点が整備され町内外から多くのお客様に来場いただき、観光入込客数は、平成 30 年（2018 年）の 562,310 人から令和 4 年（2022 年）には 471,729 人とコロナ禍の影響により大幅に減少しましたが、現在は、新型コロナウイルス感染症流行前を上回る入込客数が見込まれ、道の駅「パレットピアおおの」は、来場者数が累計で 250 万人を突破しました。また、特産品についても、「大野の太鼓判」特産品認定事業をはじめとした「おおの特産市場プロジェクト」の取り組みにより、令和６年度（2024 年度）末現在で 20 点が特産品として認定され、大野町らしさを感じていただくうえで大きな効果を果たしています。

今後も引き続き、道の駅「パレットピアおおの」を拠点として、観光面では町内の文化財をはじめとする観光資源を周遊する観光ルートを設定しつつ、令和元年（2019 年）12 月に開通した大野神戸ＩＣを活かし、西美濃圏域の玄関口として近隣市町と連携した広域的観光ネットワークを構築することで、交流人口・関係人口を増やして人やモノを呼び込み、地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大を図っていきます。商工業の面では、道の駅「パレットピアおおの」の地域振興施設において、新たな特産品・農産品の開発や販売ルートの確立等を進め、大野の太鼓判やおおのブランド野菜の充実を図ります。また、テクノパーク大野をはじめとした企業誘致を推進・整備し、雇用の創出や産業の振興を図っていきます。

また、福祉・防災・公共交通など本町が抱える課題を踏まえ今後の対策を見据えながら、生涯学習・子育て支援の場としての利用や広域防災拠点としての整備等必要な機能を備えるとともに、道の駅「パレットピアおおの」から名古屋駅までを結ぶ高速バス「にしみのライナー」を利活用し、公共交通利用者の増加や利便性向上に繋がる施策を展開し、定住環境としての魅力向上、移住定住の促進に繋げていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①観光入込客数（大野町全体）　再掲	61.4 万人	62.0 万人
②特産品の試作品数（累計）　再掲	34 品	39 品
③おおのブランド野菜の認定数（累計）　再掲	5 品種	6 品種
④名鉄廃線敷再生プロジェクトによる施設整備の満足度　再掲	55.6%	61.0%

施策詳細	事業
⑴ 「おおの魅力創出」交流人口拡大プロジェクト 大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業を中心とした町の活性化が進む中、高齢化による農業担い手不足、遊休農地の増加が問題となっています。このため、アグリパークやものづくり体験、農業体験などの体験型観光を推進することで、観光客誘致や二地域居住といった交流人口を拡大させる取り組みに加え、食材や景観等の地元資源を磨き上げ、新たな魅力を創出する事業モデルの構築など、人口減少の影響を緩和し、地域の活力を取り戻す取り組みをしていきます。	○「子育てはうす ぱすてる」の充実 ○道の駅「パレットピアおおの」における農産物直売販施設への支援 ○観光情報発信の充実 ○道の駅「パレットピアおおの」を中心とした観光拠点整備 ○大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業の更なる推進 ○主要駅への直行便の検討、高速バスの路線維持･拡充検討 ○遊休農地の解消 ○農地の集積・集約化 ○担い手・認定農業者の確保・育成 ○６次産業化に向けた支援 ○農業生産基盤整備の推進 ○ＧＡＰやＨＡＣＣＰ等の認証取得に向けた支援 ○「大野の太鼓判」特産品認定事業（個店の魅力化促進） ○フラワー都市交流連絡協議会等の交流自治体との連携強化 ○食育の推進と学校給食の充実 ○名鉄廃線敷を活用した災害時の避難路の整備 ○名鉄廃線敷等を活用した自転車道・歩道の整備

《施策 13》新産業の創出・商工業の振興

本町では、平成 21 年（2009 年）に町内の大手企業が撤退したことにより製造品出荷額が約半分にまで減少しています。商品販売額についても平成 6 年（1994 年）に大きく増加した後ほぼ横ばいの状況が続いていましたが、平成 19 年（2007 年）から平成 26 年（2014 年）にかけて一旦減少しました。平成 28 年（2016 年）には再び増加したものの、この傾向を維持していくことが求められています。

そこで、町全体に停滞が続く産業の立て直しを図るため、テクノパーク大野をはじめとした集約した工場用地を整備し、企業誘致を推進していきます。そして、企業立地促進条例に基づく工場等設置等奨励金、雇用促進奨励金を最大限に活かした企業誘致を行うとともに、高度なスキルを持った人材と企業とのマッチングを図るなど、企業の成長を人材確保の面での相談支援や広域連携よる創業支援などの施策を展開していきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①大野町企業立地促進条例に基づく奨励金措置を受けた事業所数（累計）	13 事業所	18 事業所
②企業誘致件数（累計）	2 事業所	3 事業所
③小売業の年間商品販売額	20,523 百万円(R3)	20,728 百万円
④創業希望者の支援件数（西美濃圏域）	27 件	57 件

施策詳細	事業
(1) 商工業地区の整備 主要幹線沿いを中心とした商業の活性化に努めます。 道の駅「パレットピアおおの」のブラッシュアップと合わせた商業施設等の整備・誘致を推進するとともに新たな土地利用計画や、物流拠点・商業施設の整備に対する適正な指導をします。 大野神戸ＩＣ周辺をはじめ町内への企業誘致を進め、就業機会の確保や町民所得の向上など地域経済の活性化を図ります。	○主要幹線沿いにおける物流拠点・商業施設の整備に対する適正な指導・誘導 ○大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業の更なる推進 ○関係機関と連携した企業誘致活動の展開
(2) 企業誘致の促進 企業立地促進条例に基づく奨励金制度の活用を推進し、積極的な優良企業の誘致に努めます。 新たな雇用機会の創出や地域農業の革新を図るため、大規模な植物工場等の誘致を図ります。	○大野町企業立地促進条例に基づく工場等設置等奨励金、雇用促進奨励金交付

施策詳細	事業
(3) 商工業者の活性化 商工業者の活性化を図るため、町商工会と連携して新商品の開発や掘り起こしなどの魅力創出に向けた取り組みを推進するとともに、道の駅「パレットピアおおの」等での販売促進について支援します。商品開発や販路開拓など意欲ある商工業者への支援を推進します。 町内事業者が抱える課題解決の支援や、町内事業者間の連携強化や広域的な連携の強化を図ります。	○商品開発・販売促進への支援 ○農商工連携の強化に向けた取り組み

《施策 14》農業の活性化・担い手育成

本町は豊富な水に恵まれ、肥沃な土壌を生かした水稲を中心とする水田農業をはじめ、全国有数の生産地である柿やバラ苗を中心とした農業が行われてきました。

しかし、近年は農業を取り巻く環境が厳しさを増す中、農業従事者の高齢化や後継者不足による農業従事者の減少により農地面積の減少、遊休農地の増加が課題となっています。

令和 6 年度に策定した農業経営基盤強化促進法による地域計画に基づき、農業を担う者を確保・育成し、農地中間管理機構との連携による農地の集積・集約化を進め、作業の省力化や労働時間の短縮が見込める AI、IoT 等の技術を活用したスマート農業の普及を図る必要があります。

また、シカ、イノシシ、カラス、サル等の鳥獣による農作物被害が増大し、農業所得の減少や労働意欲が低下していることから、町と地域が一体となって捕獲強化や被害防止を図る取り組みを継続する必要があります。

町全体の農地を地域活性化資源と捉え、農地として守っていくところと都市化を図るところを整理したうえで、町の基幹産業である農業の活性化や農業を身近に感じられる機会の創出を図ることが求められています。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①担い手への農地の利用集積	63.8%	78.0%
②認定農業者数（累計）	55 経営体	60 経営体
③おおのブランド野菜の認定数（累計） 再掲	5 品種	6 品種

施策詳細	事業
(1) 多様な担い手の確保・育成 農業を支える人材を確保・育成するため、農業委員会や農地中間管理機構と連携し、農地利用の最適化と担い手への農地利用の集積・集約化を図ります。	○遊休農地の解消 ○新規就農者の参入促進 ○担い手・認定農業者の確保・育成
(2) 担い手の経営発展支援 農業の担い手が意欲を持って農業経営ができる環境を整備するため、それぞれのニーズに対応した農業機械導入や農業生産基盤の推進を図ります。 ６次産業化を支援するため、関係機関と連携しながら研修会を開催するなど取り組む農家を支援します。	○営農組織の強化 ○農地の集積・集約化 ○６次産業化に向けた支援 ○農業生産基盤整備の推進

施策詳細	事業
(3) 農業を身近に感じる環境・機会の創出 道の駅「パレットピアおおの」を利用するとともに、農業体験イベントの開催や関係機関と連携した取り組みを進めるなど、農業を身近に感じられる機会の創出を図ります。 町全体の農地を地域活性化資源と捉え、関係機関と連携し、優良な農地を活かした民間活力導入によるアグリパーク等の整備を推進します。	○道の駅「パレットピアおおの」における農産物直売施設への支援 ○農業が持つ多面的機能への取り組み ○農業を活かした「新たな魅力の創出」を図る産業振興施設整備の検討 ○地産地消への取り組み
(4) 環境負荷低減農業の推進 環境への負荷の大きい化学肥料、化学合成農薬等を低減するとともに、環境にやさしい農業を推進します。	○環境にやさしい栽培技術の推進 ○ＧＡＰやＨＡＣＣＰ等の認証取得に向けた支援

基本目標５　訪れてみたい・もてなしたいという希望をかなえる（交流人口の拡大）

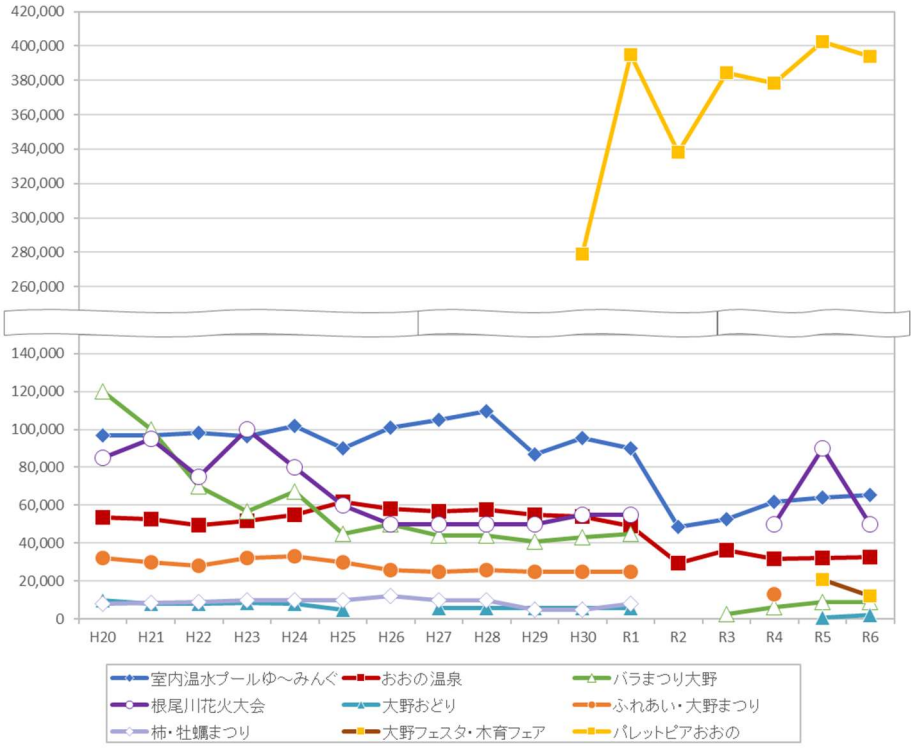
本町の観光入込客数は令和 6 年（2024 年）の実績で 61.4 万人となっており、人口規模が同程度の周辺市町と比べて入込客数が少ない状況です。本町の町内の各観光地点・行祭事・イベントにおける入込客数をみると、全体的にほぼ横ばいの状況です。

今後は、大野神戸ＩＣの開通により、強みとなる広域での交通利便性と西美濃圏域の玄関口としての立地、観光拠点として期待される道の駅「パレットピアおおの」の魅力発信により集客力の向上を図ります。また、豊富な地域資源を活かした取り組みにより、弱みである観光資源の活用不足を克服し、更なる交流人口の拡大と観光を契機とした関係人口の創出を目指していきます。具体的な取り組みとしては、道の駅「パレットピアおおの」を核として特産品を充実させ、名鉄廃線敷や町の豊富な文化財等を地域資源として活用し、これら観光資源をＰＲするタウンプロモーションを積極的に展開していきます。

基本目標５　訪れてみたい・もてなしたいという希望をかなえる
施策 15　タウンプロモーションの展開　【再掲】
施策 16　地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大　【再掲】

政策指標	基準値（R6）	実績値（R6）	数値目標（R11）
観光入込客数（大野町全体）	61.4 万人	61.4 万人	62.0 万人

図　大野町の観光地点・イベント等の入込客数（資料：岐阜県観光入込客統計調査）



再　掲

《施策 15》タウンプロモーションの展開

本町には、揖斐川、根尾川の清き水と北部山麓に広がる緑の美しい山並みなどの豊かな自然や国指定史跡野古墳群などの歴史的遺産が数多く点在し、それぞれの施設が独自の魅力、可能性を持っています。それらの地域資源を活用するため、道の駅「パレットピアおおの」には、町内各地に点在する観光施設の場所や、観光案内を表示した観光案内サインを設置したり、ウォーキングルートを設定しルートサインを設置したりするなど、観光客が回遊しやすい環境の整備を進めています。また、町民も含めて町の魅力の再発見や健康増進への効果も期待されます。

令和 2 年度（2020 年度）には、観光ボランティアガイド「美濃大野発見ガイド隊」が発足し、観光情報の発信、ガイドツアーの実施等、若い世代へ文化の伝承につなげる活動がスタートしています。

加えて、西美濃圏域を一体とした広域的な観光ルートづくりを進め、更なる観光資源の発掘を視野に入れたプロモーションを展開することで、交流人口・関係人口を増やし、人やモノを呼び込み、地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大を図っていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①観光入込客数（大野町全体）　再掲	61.4 万人	62.0 万人
②西美濃圏域における観光入込客数　再掲	1,207 万人	1,520 万人
③町ホームページのアクセス件数　再掲	67,851 件/月	80,000 件/月

施策詳細	事業
(1)「おおの魅力創出」交流人口拡大プロジェクト 大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業を中心とした町の活性化が進む中、高齢化による農業担い手不足、遊休農地の増加が問題となっています。このため、アグリパークやものづくり体験、農業体験などの体験型観光を推進することで、観光客誘致や二地域居住といった交流人口を拡大させる取り組みに加え、食材や景観等の地元資源を磨き上げ、新たな魅力を創出する事業モデルの構築など、人口減少の影響を緩和し、地域の活力を取り戻す取り組みをしていきます。	○広域的観光ルート（西美濃夢源回廊等）の開拓 ○観光情報発信の充実 ○道の駅「パレットピアおおの」を中心とした観光拠点整備 ○「大野の太鼓判」特産品認定事業（個店の魅力化促進） ○フラワー都市交流連絡協議会等の交流自治体との連携強化 ○大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業の更なる推進 ○既存公園の適正な維持管理 ○大野町文化財保存活用地域計画の策定の取り込み ○旧北岡田家住宅の保存・活用 ○史跡野古墳群の保存・活用 ○文化財をめぐる観光ガイドツアー ○博物館施設の整備・活用 ○農業を活かした「新たな魅力の創出」を図る産業振興施設整備の検討 ○温泉施設の整備検討

施策詳細	事業
(2)観光ネットワークの構築 観光ニーズの多様化を踏まえ、イベント、歴史、自然、伝統文化を活かした西美濃圏域を中心とした広域的観光ルートの開拓を進めます。 町内の主要な観光施設においても、相互の連携や回遊性の向上、町外施設等との連携による魅力向上などを図ります。また、町内の主要な交通結節点や観光施設等において、ユニバーサルデザインに配慮したわかりやすく本町の魅力を発信する案内サイン等の整備を推進します。 インターネット、ＳＮＳ等の各種媒体を活用し、道の駅「パレットピアおおの」をはじめ、観光情報発信の充実を図ります。 名鉄廃線敷をサイクリングロードなどの観光資源として活用します。	○広域的観光ルート（西美濃夢源回廊等）の開拓 ○町内観光施設の回遊性向上・観光ルート・散策モデルコースづくり ○観光情報発信の充実 ○名鉄廃線敷の活用

再　掲

《施策 16》地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大

本町は、バラ苗や富有柿等の特産品、旧北岡田家住宅や史跡野古墳群等の地域資源はあるものの、特産品を利用した通年販売できる商品が少ないことや、一年を通じた観光施設の不足等の課題がありました。

しかしながら、平成 30 年（2018 年）に、道の駅「パレットピアおおの」が開駅したことで、観光交流の拠点が整備され町内外から多くのお客様に来場いただき、観光入込客数は、平成 30 年（2018 年）の 562,310 人から令和 4 年（2022 年）には 471,729 人とコロナ禍の影響により大幅に減少しましたが、現在は、新型コロナウイルス感染症流行前を上回る入込客数が見込まれ、道の駅「パレットピアおおの」は、来場者数が累計で 250 万人を突破しました。また、特産品についても、「大野の太鼓判」特産品認定事業をはじめとした「おおの特産市場プロジェクト」の取り組みにより、令和６年度（2024 年度）末現在で 20 点が特産品として認定され、大野町らしさを感じていただくうえで大きな効果を果たしています。

今後も引き続き、道の駅「パレットピアおおの」を拠点として、観光面では町内の文化財をはじめとする観光資源を周遊する観光ルートを設定しつつ、令和元年（2019 年）12 月に開通した大野神戸ＩＣを活かし、西美濃圏域の玄関口として近隣市町と連携した広域的観光ネットワークを構築することで、交流人口・関係人口を増やして人やモノを呼び込み、地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大を図っていきます。商工業の面では、道の駅「パレットピアおおの」の地域振興施設において、新たな特産品・農産品の開発や販売ルートの確立等を進め、大野の太鼓判やおおのブランド野菜の充実を図ります。また、テクノパーク大野をはじめとした企業誘致を推進・整備し、雇用の創出や産業の振興を図っていきます。

また、福祉・防災・公共交通など本町が抱える課題を踏まえ今後の対策を見据えながら、生涯学習・子育て支援の場としての利用や広域防災拠点としての整備等必要な機能を備えるとともに、道の駅「パレットピアおおの」から名古屋駅までを結ぶ高速バス「にしみのライナー」を利活用し、公共交通利用者の増加や利便性向上に繋がる施策を展開し、定住環境としての魅力向上、移住定住の促進に繋げていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（R6）	数値目標（R11）
①観光入込客数（大野町全体）　再掲	61.4 万人	62.0 万人
②特産品の試作品数（累計）　再掲	34 品	39 品
③おおのブランド野菜の認定数（累計）　再掲	5 品種	6 品種
④名鉄廃線敷再生プロジェクトによる施設整備の満足度　再掲	55.6%	61.0%

施策詳細	事業
⑴「おおの魅力創出」交流人口拡大プロジェクト 大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業を中心とした町の活性化が進む中、高齢化による農業担い手不足、遊休農地の増加が問題となっています。このため、アグリパークやものづくり体験、農業体験などの体験型観光を推進することで、観光客誘致や二地域居住といった交流人口を拡大させる取り組みに加え、食材や景観等の地元資源を磨き上げ、新たな魅力を創出する事業モデルの構築など、人口減少の影響を緩和し、地域の活力を取り戻す取り組みをしていきます。	○「子育てはうす ぱすてる」の充実 ○道の駅「パレットピアおおの」における農産物直売販施設への支援 ○観光情報発信の充実 ○道の駅「パレットピアおおの」を中心とした観光拠点整備 ○大野神戸ＩＣ周辺まちづくり整備事業の更なる推進 ○主要駅への直行便の検討、高速バスの路線維持･拡充検討 ○遊休農地の解消 ○農地の集積・集約化 ○担い手・認定農業者の確保・育成 ○６次産業化に向けた支援 ○農業生産基盤整備の推進 ○ＧＡＰやＨＡＣＣＰ等の認証取得に向けた支援 ○「大野の太鼓判」特産品認定事業（個店の魅力化促進） ○フラワー都市交流連絡協議会等の交流自治体との連携強化 ○食育の推進と学校給食の充実 ○名鉄廃線敷を活用した災害時の避難路の整備 ○名鉄廃線敷等を活用した自転車道・歩道の整備

巻末資料

①基本目標の具体的評価

政策指標	単位		基準値	第３期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
基本目標１結婚・出産・子育ての希望をかなえる(出生数を増やす)								
年間出生数	人	目標値	ー	87	106	126	145	165
		実績値	68					
		評価	ー					
合計特殊出生率	ー	目標値	ー					
		実績値	1.57	1.80	1.80	1.80	1.80	1.80
		評価	ー					
婚姻数（累計）	件	目標値	ー					
		実績値	28	56	84	112	140	168
		評価	ー					
基本目標２いつまでの健康の希望をかなえる								
健康に暮らす人の割合	%	目標値	ー	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
		実績値	84.0					
		評価	ー					
基本目標３住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえる								
若年層(15～34 歳)転出入者数	人	目標値	ー	-131	-116	-102	-87	-73
		実績値	-146					
		評価	ー					
基本目標４働きたいという希望をかなえる								
町内事業所における従業者数	人	目標値	ー	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200
		実績値	6,832					
		評価	ー					
納税義務者１人あたり所得	万円	目標値	ー	329.8	333.1	336.4	339.8	343.2
		実績値	326.6					
		評価	ー					
基本目標５訪れてみたい・もてなしたいという希望をかなえる								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	ー	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0
		実績値	61.4					
		評価	ー					

②施策の具体的評価

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第３期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策1.子育て支援の充実								
大野町はこどもを産み育てやすいまちと思う町民の割合	%	目標値	ー	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0
		実績値	57.5					
		評価	ー					
「子育てはうす　ぱすてる」入館数	人/日	目標値	ー	90	93	96	98	100
		実績値	87					
		評価	ー					
認定こども園待機児童数	人	目標値	ー	0	0	0	0	0
		実績値	0					
		評価	ー					
放課後児童クラブ待機児童数	人	目標値	ー	0	0	0	0	0
		実績値	0					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第３期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策2.教育力の強化・教育レベルの向上								
学力・学習状況調査 授業の理解度 小学校国語	%	目標値	ー	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
		実績値	87.3					
		評価	ー					
学力・学習状況調査 授業の理解度 小学校算数	%	目標値	ー	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
		実績値	85.7					
		評価	ー					
学力・学習状況調査 授業の理解度 中学校国語	%	目標値	ー	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
		実績値	87.3					
		評価	ー					
学力・学習状況調査 授業の理解度 中学校数学	%	目標値	ー	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
		実績値	70.4					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策3.地域で子どもを守り・育む環境づくり								
健康づくり等講座開催数	回	目標値	ー	55	55	55	55	55
		実績値	63					
		評価	ー					
健康づくり等講座参加者数	人	目標値	ー	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		実績値	934					
		評価	ー					
成人の特定健診受診率（40歳～74歳）	%	目標値	ー	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0
		実績値	36.2					
		評価	ー					
高齢者の健診受診率（ぎふ・すこやか健診）（75歳～）	%	目標値	ー	36.7	37.2	38.0	39.0	40.0
		実績値	36.2					
		評価	ー					
ゲートキーパー養成講座受講者数（延べ人数）	人	目標値	ー	400	500	600	700	800
		実績値	322					
		評価	ー					
認知症サポーター養成講座受講者数（延べ人数）	人	目標値	ー	1,780	1,860	1,940	2,020	2,500
		実績値	1,691					
		評価	ー					
スポーツ・レクリエーションイベント参加者数	人/年	目標値	ー	2,400	2,425	2,450	2,475	2,500
		実績値	2,425					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策4.地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	ー	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0
		実績値	61.4					
		評価	ー					
特産品の試作品数（累計）	品	目標値	ー	35	36	37	38	39
		実績値	34					
		評価	ー					
おおのブランド野菜の認定数（累計）	品種	目標値	ー	5	5	5	5	6
		実績値	5					
		評価	ー					
名鉄廃線敷再生プロジェクトによる施設整備の満足度	%	目標値	ー	57.0	58.0	59.0	60.0	61.0
		実績値	55.6					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策5.タウンプロモーションの展開								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	ー	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0
		実績値	61.4					
		評価	ー					
西美濃圏域における観光入込客数	万人	目標値	ー	1,480	1,490	1,500	1,510	1,520
		実績値	1,207					
		評価	ー					
町ホームページのアクセス件数	件/月	目標値	ー	70,300	72,700	75,100	77,500	80,000
		実績値	67,851					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策6.定住環境としての魅力向上								
空き家の活用（累計）	件	目標値	ー	30	34	38	43	49
		実績値	11					
		評価	ー					
防災啓発（教育）活動における受講者数	人	目標値	ー	600	700	800	900	1,000
		実績値	557					
		評価	ー					
防災士補助活用人数（累計）	人	目標値	ー	61	66	71	76	81
		実績値	60					
		評価	ー					
汚水処理人口普及率	%	目標値	ー	91.9	92.5	93.2	93.8	94.5
		実績値	91.9					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策7.郷土愛の醸成・特色あるふるさとづくり								
町の歴史や文化に興味がある町民の割合	%	目標値	ー	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0
		実績値	40.0					
		評価	ー					
歴史や伝統文化に係る活動への参加者数	人	目標値	ー	570	570	570	570	570
		実績値	570					
		評価	ー					
郷土博物館の年間来場者数	人	目標値	ー	1,150	1,150	1,150	1,200	1,200
		実績値	1,124					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策8.地域活動の活性化								
日頃から隣近所の人たちと付き合いや交流がある町民の割合	%	目標値	―	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
		実績値	65.6					
		評価	―					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策9.公共交通の充実								
あいのりくん・あいのりくんプラス利用者数	人	目標値	―	12,200	12,400	12,600	12,800	13,000
		実績値	11,956					
		評価	―					
デマンドタクシー自宅前登録者のうち１年以内に利用したことがある人の割合	%	目標値	―	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0
		実績値	19.0					
		評価	―					
町内バス停の利用者数	人	目標値	―	43,000	44,900	46,600	48,300	50,000
		実績値	41,520					
		評価	―					
通勤通学や買い物等の日常生活の移動に不便を感じている町民の割合	%	目標値	―	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
		実績値	45.3					
		評価	―					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策10.地域福祉の充実								
地域交流サロンでの交流者数	人	目標値	―	4,380	4,410	4,440	4,470	4,500
		実績値	4,346					
		評価	―					
日頃から隣近所の人たちと付き合いや交流がある町民の割合	%	目標値	―	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
		実績値	65.6					
		評価	―					
避難行動要支援者名簿登録者における個別避難計画の作成者数	人	目標値	―	300	325	350	375	400
		実績値	278					
		評価	―					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策11.移住・UJIターンの促進								
新築住宅の移住定住補助金交付件数（累計）	件	目標値	ー	110	170	230	290	350
		実績値	53					
		評価	ー					
空き家の活用	件	目標値	ー	30	34	38	43	49
		実績値	11					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策12.地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	ー	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0
		実績値	61.4					
		評価	ー					
特産品の試作品数（累計）	品	目標値	ー	35	36	37	38	39
		実績値	35					
		評価	ー					
おおのブランド野菜の認定数（累計）	品種	目標値	ー	5	5	5	5	6
		実績値	5					
		評価	ー					
名鉄廃線敷再生プロジェクトによる施設整備の満足度	%	目標値	ー	57.0	58.0	59.0	60.0	61.0
		実績値	55.6					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策13.新産業の創出・商工業の振興								
大野町企業立地促進条例に基づく奨励金措置を受けた事業所数	事業所	目標値	ー	14	15	16	17	18
		実績値	13					
		評価	ー					
企業誘致件数（累計）	事業所	目標値	ー	3	3	3	3	3
		実績値	2					
		評価	ー					
小売業の年間商品販売額	百万円	目標値	ー	20,728	20,728	20,728	20,728	20,728
		実績値	20,523					
		評価	ー					
創業希望者の支援件数（西美濃圏域）	件	目標値	ー	57	57	57	57	57
		実績値	27					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策14.農業の活性化・担い手育成								
担い手への農地集積	%	目標値	ー	66.7	69.6	72.4	75.2	78.0
		実績値	63.8					
		評価	ー					
認定農業者数（累計）	経営体	目標値	ー	56	57	58	59	60
		実績値	55					
		評価	ー					
おおのブランド野菜の認定数（累計）	品種	目標値	ー	5	5	5	5	6
		実績値	5					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策15.タウンプロモーションの展開								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	ー	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0
		実績値	61.4					
		評価	ー					
西美濃圏域における観光入込客数	万人	目標値	ー	1,480	1,490	1,500	1,510	1,520
		実績値	1,207					
		評価	ー					
町ホームページのアクセス件数	件/月	目標値	ー	70,300	72,700	75,100	77,500	80,000
		実績値	67,851					
		評価	ー					

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第3期総合戦略計画期間				
				R7	R8	R9	R10	R11
施策16.地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	ー	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0
		実績値	61.4					
		評価	ー					
特産品の試作品数（累計）	品	目標値	ー	35	36	37	38	39
		実績値	34					
		評価	ー					
おおのブランド野菜の認定数	品種	目標値	ー	5	5	5	5	6
		実績値	5					
		評価	ー					
名鉄廃線敷再生プロジェクトによる施設整備の満足度	%	目標値	ー	57.0	58.0	59.0	60.0	61.0
		実績値	55.6					
		評価	ー					

参考資料（第２期総合戦略）

①基本目標の具体的評価

政策指標	単位		基準値	第２期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
基本目標１結婚・出産・子育ての希望をかなえる								
年間出生数	人	目標値	ー	170	131	144	157	170
		実績値	189	118	107	78	79	68
		評価	ー	未達成	未達成	未達成	未達成	未達成
合計特殊出生率	ー	目標値	ー	1.53	1.53	1.53	1.53	1.53
		実績値	1.40	ー	ー	ー	1.34	ー
		評価	ー	ー	ー	ー	未達成	ー
基本目標２いつまでの健康の希望をかなえる								
健康に暮らす人の割合	%	目標値	ー	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0
		実績値	85.1	86.0	85.0	84.6	84.7	84.0
		評価	ー	概ね達成	概ね達成	概ね達成	概ね達成	概ね達成
基本目標３住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえる								
若年層(15～34 歳)転出入者数	人	目標値	ー	転出超過0人	転出超過67人	転出超過45人	転出超過23人	転出超過0人
		実績値	77 人の転出超過	89 人の転出超過	176 人の転出超過	89 人の転出超過	94 人の転出超過	146 人の転出超過
		評価	ー	未達成	未達成	未達成	未達成	未達成
基本目標４働きたいという希望をかなえる								
町内事業所における従業者数	人	目標値	ー	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200
		実績値	6,678	ー	6,832	6,832	6,832	6,832
		評価	ー	指標なし	概ね達成	概ね達成	概ね達成	概ね達成
基本目標５訪れてみたい・もてなしたいという希望をかなえる								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	ー	70.0	50.0	58.3	66.7	75.0
		実績値	30.0	41.6	47.6	54.1	61.9	61.4
		評価	ー	未達成	概ね達成	概ね達成	概ね達成	下回る

②施策の具体的評価

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第２期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策 1.子育て支援の充実								
大野町はこどもを産み育てやすいまちと思う町民の割合	%	目標値	―	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
		実績値	60.6	―	―	―	―	57.5
		評価	―	E	E	E	E	C
「子育てはうす　ぱすてる」入館数	人/日	目標値	―	160	64	70	75	120
		実績値	151	32	62	55	116	87
		評価	―	D	B	C	S	C
認定こども園待機児童数	人	目標値	―	0	0	0	0	0
		実績値	0	0	0	0	0	0
		評価	―	B	B	B	B	B
放課後児童クラブ待機児童数	人	目標値	―	0	0	0	0	0
		実績値	0	0	0	0	0	0
		評価	―	B	B	B	B	B
不妊治療助成事業の利用件数	件	目標値	―	196	222	248	274	300
		実績値	170	197	214	218	―	―
		評価	―	B	B	C	E	E

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第２期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策 2.教育力の強化・教育レベルの向上								
学力・学習状況調査 授業の理解度 小学校国語	%	目標値	―	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
		実績値	76.4	―	81.0	85.8	82.7	87.3
		評価	―	E	B	B	B	B
学力・学習状況調査 授業の理解度 小学校算数	%	目標値	―	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
		実績値	76.5	―	85.3	84.1	81.1	85.7
		評価	―	E	B	B	B	B
学力・学習状況調査 授業の理解度 中学校国語	%	目標値	―	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
		実績値	72.5	―	67.2	74.0	81.5	87.3
		評価	―	E	C	B	B	B
学力・学習状況調査 授業の理解度 中学校数学	%	目標値	―	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
		実績値	71.6	―	68.9	75.5	72.7	70.4
		評価	―	E	C	B	B	C

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策3.地域で子どもを守り・育む環境づくり								
健康づくり等講座開催数	回	目標値	―	54	38	46	54	60
		実績値	52	30	32	48	46	63
		評価	―	D	C	B	C	B
健康づくり等講座参加者数	人	目標値	―	910	556	704	852	1,000
		実績値	888	408	310	497	503	934
		評価	―	D	D	C	D	B
成人の特定健診受診率（40歳～74歳）	%	目標値	―	41.0	41.1	47.5	53.9	60.0
		実績値	36.0	34.7	34.1	32.4	34.4	36.2
		評価	―	C	C	D	D	D
高齢者の健診受診率（ぎふ・すこやか健診）（75歳～）	%	目標値	―	―	―	37.5	38.75	40.0
		実績値	―	―	36.2	32.5	36.1	36.2
		評価	―	―	―	C	B	B
ゲートキーパー養成講座受講者数（延べ人数）	人	目標値	―	139	157	188	219	250
		実績値	111	126	158	208	305	322
		評価	―	B	B	A	S	A
認知症サポーター養成講座受講者数（延べ人数）	人	目標値	―	1,189	1,311	1,641	1,971	2,300
		実績値	911	981	1,098	1,230	1,420	1,691
		評価	―	C	C	C	C	C
スポーツ・レクリエーションイベント参加者数	人/年	目標値	―	2,220	1,227	1,585	1,943	2,300
		実績値	2,200	869	799	2,029	2,247	2,425
		評価	―	D	D	A	A	B

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策4.地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	―	70.0	50.0	58.3	66.7	75.0
		実績値	67.3	41.6	47.6	54.1	61.9	61.4
		評価	―	D	B	B	B	C
特産品の試作品数（累計）	品	目標値	―	27	29	31	31	31
		実績値	27	29	30	31	33	34
		評価	―	B	B	B	B	B
おおのブランド野菜の認定数（累計）	品種	目標値	―	5	5	5	5	5
		実績値	0	5	5	5	5	5
		評価	―	B	B	B	B	B
名鉄廃線敷再生プロジェクトによる整備施設の満足度	%	目標値	―	52.0	54.0	56.0	58.0	60.0
		実績値	―	53.5	―	56.3	63.3	55.6
		評価	―	B	E	B	B	B

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策5.タウンプロモーションの展開								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	―	70.0	50.0	58.3	66.7	75.0
		実績値	67.3	41.6	47.6	54.1	61.9	61.4
		評価	―	D	B	B	B	C
西美濃圏域における観光入込客数	万人	目標値	―	1,418	1,433	1,448	1,463	1,480
		実績値	1,403	858	800	1,007	1,404	1,207
		評価	―	D	D	D	B	C
町ホームページのアクセス件数	件/月	目標値	―	59,672	63,004	80,000	80,000	80,000
		実績値	56,340	76,935	93,995	79,679	68,587	6,7851
		評価	―	S	S	B	B	C

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策6.定住環境としての魅力向上								
空き家の活用（累計）	件	目標値	―	5	11	17	23	28
		実績値	0	2	3	6	7	11
		評価	―	D	D	D	D	D
防災啓発（教育）活動における受講者数	人	目標値	―	109	144	70	90	100
		実績値	74	108	50	63	180	557
		評価	―	B	D	B	S	S
防災リーダー（防災士）の人数	人	目標値	―	36	40	42	44	46
		実績値	34	38	41	48	51	60
		評価	―	B	B	A	A	S
汚水処理人口普及率	%	目標値	―	81.7	83.4	85.1	86.8	90.0(R7)
		実績値	75.9	80.1	84.5	87.3	90.1	91.9
		評価	―	B	B	B	B	B

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策7.郷土愛の醸成・特色あるふるさとづくり								
町の歴史や文化に興味がある町民の割合	%	目標値	―	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		実績値	41.7	―	―	―	―	40.0
		評価	―	E	E	E	E	C
歴史や伝統文化に係る活動への参加者数	人	目標値	―	570	570	570	570	570
		実績値	566	587	547	663	826	570
		評価	―	B	B	A	S	B
郷土博物館の年間来場者数	人	目標値	―	―	1,000	1,000	1,000	1,000
		実績値	―	―	2,300	1,361	1,159	1,124
		評価	―	―	S	S	A	A

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策8.地域活動の活性化								
日頃から隣近所の人たちと付き合いや交流がある町民の割合	%	目標値	―	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
		実績値	70.7	―	―	―	―	65.6
		評価	―	E	E	E	E	C
青少年による諸活動への参加者数	人	目標値	―	365	152	228	304	380
		実績値	361	76	48	156	122	43
		評価	―	D	D	D	D	D

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策9.公共交通の充実								
デマンドタクシー利用者数	人	目標値	―	10,898	10,653	12,101	13,549	15,000
		実績値	9,873	9,205	9,180	8,517	8,710	8,599
		評価	―	C	C	C	D	D
デマンドタクシー自宅前登録者のうち１年以内に利用したことがある人の割合	%	目標値	―	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		実績値	30.1	―	21.0	22.0	21.0	19.0
		評価	―	E	D	D	D	D
町内バス停の年間利用者数	人	目標値	―	51,461	43,743	49,161	54,579	60,000
		実績値	49,461	38,325	40,172	42,954	50,235	41,520
		評価	―	C	B	C	B	D
通勤通学や買い物等の日常生活の移動に不便を感じている町民の割合	%	目標値	―	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0
		実績値	48.9	―	―	―	―	45.3
		評価	―	E	E	E	E	C

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策10.地域福祉の充実								
地域交流サロンでの交流者数	人	目標値	―	3,615	2,380	3,020	3,660	4,300
		実績値	3,444	1,740	2,551	3,317	4,109	4,346
		評価	―	D	B	B	A	B
日頃から隣近所の人たちと付き合いや交流がある町民の割合	%	目標値	―	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
		実績値	70.7	―	―	―	―	65.6
		評価	―	E	E	E	E	C
避難行動要支援者名簿登録者における個別避難計画の作成者数	人	目標値	―	―	―	―	300	500
		実績値	―	―	―	117	134	278
		評価	―	―	―	―	D	D

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策11.移住・UJIターンの促進								
定住奨励金申請件数（累積件数）	件	目標値	ー	460	525	583	641	700
		実績値	400	467	518	564	620	673
		評価	ー	B	B	B	B	B
空き家の活用（累計）	件	目標値	ー	5	11	17	23	28
		実績値	0	2	3	6	7	11
		評価	ー	D	D	D	D	D

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策12.地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	ー	70.0	50.0	58.3	66.7	75.0
		実績値	67.3	41.6	47.6	54.1	61.9	61.4
		評価	ー	D	B	B	B	C
特産品の試作品数（累計）	品	目標値	ー	27	29	31	31	31
		実績値	27	29	30	31	33	34
		評価	ー	B	B	B	B	B
おおのブランド野菜の認定数（累計）	品種	目標値	ー	5	5	5	5	5
		実績値	0	5	5	5	5	5
		評価	ー	B	B	B	B	B
名鉄廃線敷再生プロジェクトによる整備施設の満足度	%	目標値	ー	52.0	54.0	56.0	58.0	60.0
		実績値	ー	53.5	ー	56.3	63.3	55.6
		評価	ー	B	E	B	B	B

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策13.新産業の創出・商工業の振興								
大野町企業立地促進条例に基づく奨励金措置を受けた事業所数	事業所	目標値	ー	8	10	11	12	14
		実績値	8	10	10	11	13	13
		評価	ー	A	B	B	B	B
企業誘致件数（累計）	事業所	目標値	ー	ー	ー	2	3	3
		実績値	ー	ー	1	2	2	2
		評価	ー	ー	ー	B	D	D
小売業の年間商品販売額	百万円	目標値	ー	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000
		実績値	16,336	ー	17,482	17,482	17,482	20,523
		評価	ー	E	B	B	B	A
創業希望者の支援件数（西美濃圏域）	件	目標値	ー	57	31	39	47	57
		実績値	18	23	19	27	56	27
		評価	ー	D	D	D	A	D

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策14.農業の活性化・担い手育成								
担い手への農地集積	%	目標値	ー	49.0	50.5	58.5	59.5	60.0
		実績値	47.5	49.4	58.0	61.0	62.9	63.8
		評価	ー	B	B	B	B	B
認定農業者数（累計）	経営体	目標値	ー	45	46	49	49	49
		実績値	44	46	48	53	55	55
		評価	ー	B	B	B	A	A
おおのブランド野菜の認定数（累計）	品種	目標値	ー	5	5	5	5	5
		実績値	0	5	5	5	5	5
		評価	ー	B	B	B	B	B

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策15.タウンプロモーションの展開								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	ー	70.0	50.0	58.3	66.7	75.0
		実績値	67.3	41.6	47.6	54.1	61.9	61.4
		評価	ー	D	B	B	B	C
西美濃圏域における観光入込客数	万人	目標値	ー	1,418	1,433	1,448	1,463	1,480
		実績値	1,403	858	800	1,007	1,404	1,207
		評価	ー	D	D	D	B	C
町ホームページのアクセス件数	件/月	目標値	ー	59,672	63,004	80,000	80,000	80,000
		実績値	56,340	76,935	93,995	79,679	68,587	67,851
		評価	ー	S	S	B	C	C

重要業績評価指標（KPI）	単位		基準値	第2期総合戦略計画期間				
				R2	R3	R4	R5	R6
施策16.地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大								
観光入込客数（大野町全体）	万人	目標値	ー	70.0	50.0	58.3	66.7	75.0
		実績値	67.3	41.6	47.6	54.1	61.9	61.4
		評価	ー	D	B	B	B	C
特産品の試作品数（累計）	品	目標値	ー	27	29	31	31	31
		実績値	27	29	30	31	33	34
		評価	ー	B	B	B	B	B
おおのブランド野菜の認定数（累計）	品種	目標値	ー	5	5	5	5	5
		実績値	0	5	5	5	5	5
		評価	ー	B	B	B	B	B
名鉄廃線敷再生プロジェクトによる整備施設の満足度	%	目標値	ー	52.0	54.0	56.0	58.0	60.0
		実績値	ー	53.5	ー	56.3	63.3	55.6
		評価	ー	B	E	B	B	B

第３期おおの創生総合戦略

令和 7 年（2025 年）8 月～令和 12 年（2030 年）3 月

発行　大野町

〒501-0592　岐阜県揖斐郡大野町大字大野 80 番地

TEL　0585-34-1111

FAX　0585-34-2110